

教育サービスの経営品質を考える
- 開倫塾の TQM によるサービスイノベーションとは -

開倫塾
塾長 林 明夫

お読みになりやすいように QandA の形式でレジュメをつくりました。御活用下さい。報告の中で不明な点は御遠慮なく御質問下さいますようお願い申し上げます。

Q1：開倫塾では、「教育の質」とは何であると考えていますか。

A：(林明夫。以下略)いきなりズバツときましたね。それでは、お答えします。開倫塾では重視すべき教育の質を次の3点と考えます。

開倫塾の「教育の質」とは――

- (1)カリキュラムの質
- (2)先生の質
- (3)マネジメントの質

Q2：それでは、開倫塾で重視すべきと考える「教育の質」について1つずつお聞きします。

開倫塾のカリキュラムにはどのようなものがありますか。

A：カリキュラム(Curriculum)とは、「教育の内容を学習の目的や目標に応じて系統的に配列した教育課程」をいいます(広辞苑を参考にした定義)。

開倫塾では、次のようなカリキュラムを重要と考えています。

開倫塾が重要と考えるカリキュラム(すべて小学交1年生から高校3年生まで)――

- (1)レギュラー授業の通年カリキュラム
- (2)講習会(春期講習会、夏期講習会、冬期講習会)のカリキュラム
- (3)特訓授業(お盆特訓、正月特訓)や特別授業(入試対策ゼミナール、土曜ゼミナール、日曜ゼミナール、直前特訓)などのカリキュラム
- (4)学校の「定期テスト」(3学期制の学校の間試験、期末試験、学年末試験。2学期制の学校の前期試験、後期試験)対策授業カリキュラム
- (5)学校の「実力テスト」対策授業カリキュラム
- (6)「業者模擬試験」(四谷大塚ジュニア、群馬統一テスト、茨城統一テスト、下野模擬テスト、進研模試、代ゼミ模試、河合塾全統模試 etc..)対策授業カリキュラム
- (7)文部科学省「全国学力テスト」(小6、中3)対策授業カリキュラム
- (8)「検定試験」対策授業カリキュラム
 - 実用英語技能検定試験(ジュニア英検も)
 - 漢字検定試験

言語力検定試験

数学検定試験

(9)「入学試験」対策カリキュラム

中学校入試

(ア)私立中学校入試

(イ)公立中高一貫校入試

高校入試

(ア)私立高校(学業特待入試、一般入試、専願・単願入試)

(イ)国立工業専門学校入試

(ウ)県立高校入試(推薦入試、一般入試)

大学入試対策カリキュラム

(ア)AO 入試(自己推薦入試、公募推薦入試、一芸入試)

(イ)大学入試センター試験

(ウ)一般入試(国公立大学入試、私立大学入試、省庁大学校入試)

Q3：随分たくさんあるのですね。これらのカリキュラムの内容として重視すべきものは何ですか。

A：開倫塾はカリキュラムの内容として次のようなものを重視すべきものと考え、準備しています。

— 開倫塾のカリキュラム内容で重視すべきもの —

(1)シラバス(syllabus、授業実施要項。授業の目的・内容・使用テキスト・参考文献・評価方法などについて記した計画書。広辞苑より)

(2)メイン・テキスト

(3)資料集、まとめ教材

(4)問題集(過去問集、出題予想問題集)

(5)テスト

毎回の授業の確認テスト

単元テスト

実力テスト

模擬テスト(開倫模試)

(6)モデル授業進行表(ほぼすべての授業についての授業マニュアル)

モデル・レッスンプラン例

モデル・板書例

Q4：教科のカリキュラム以外で、開倫塾で重視すべきカリキュラムとして大切にしていることはありますか。

A：はい、あります。開倫塾では、「教育のメインストリームは学校教育である。ただ、学校教育に不足するところは数多くある。その不足する学校教育を補うことが開倫塾の使命、教育の内容」と考えております。ですから、教科の具体的な指導の他にも、カリキュラムとして大切にしていることはあります。その1つが「勉強の仕方」です。開倫塾では、「勉強の仕方」を「学習の3段階理論」としてまとめあげ、大切なものとして折に触れて指導しています。

また、躰(しつけ)教育の大切さも認識。5S(ごえす)も含め大切なものとして指導しています。

開倫塾で大切と考える教科以外のカリキュラム

(1) 勉強の仕方 - 「学習の3段階理論」 -

理解(うんなるほどとよくわかること。納得すること。腑(ふ)に落ちること)

(ア)授業の受け方

(イ)ノートの取り方、まとめ方

(ウ)辞書、参考書の用い方

定着 - 一度「うんなるほど」と「理解」したことを正確に身につける「定着のための三大練習」とは -

(ア)「音読練習」の仕方

(イ)「書き取り練習」の仕方

(ウ)「計算・問題練習」の仕方

*「練習は不可能を可能にする」(小泉信三先生)

「応用」(「理解」→「定着」したことを役立てること)

(ア)定期テストで100点を取る方法

(イ)入試や資格試験等で合格点を取る方法

(ウ)社会で活用する方法

(2)読書による思慮深さを身につける方法

本は6回ゆっくり読む

「書き抜き読書ノート」の作成と活用

(3)NIE(新聞を教育へ)

新聞を読み自分で考える能力、批判的思考能力(Critical Thinking クリティカル・シンキング)を身につける

「スクラップ・ブック」の作成と活用

(4)躰教育

「開倫塾15の躰プログラム」

- 「靴を手で揃(そろ)える」からスタート -

「開倫5Sプログラム」

(5)開倫ユネスコ協会の各種プログラムに参加

ドッジボール大会

童話大賞

エッセイ大賞(私の大切にしているもの、新聞を読んで考える)

ポエム大賞

デザイン大賞(Love and Peace)

平和の鐘を鳴らそう

世界寺子屋運動

(6)日本の文化、世界の文化を知ろう

七夕(たなばた)祭り、 ハロウィーン、 クリスマス、 TDL ツアー

(7)理科実験教室

(8)地元の図書館、美術館、博物館、自然公園、名所旧跡を訪れよう

自習室の活用方法

(1)おしゃべりや飲食、携帯電話
など勉強以外のことは絶対禁止

(2)夜10時30分過ぎまでの居残り
は絶対禁止

Q5：教科以外にも随分多くのことをカリキュラムとして大切にしているのですね。では、おうかがいします。それらのカリキュラムの質を向上させるために、開倫塾ではどのような取り組みをしていますか。

A：

カリキュラムの質の向上の取り組み

- (1) P(Plan、計画)→ D(Do、実行)→ C(Check、検証)→ A(Action、修正)を徹底的に回し続け、改善活動やシステム改革を続けることで価値創造・イノベーションを目指す。
- (2) 担当者やクラス、校舎によるバラツキを少なくするために、「標準化」を推進する。
- (3) 取り組みテーマごとに、「競合比較」と「ベストプラクティスのベンチマーキング(社内ベストプラクティス、同業他社のベストプラクティス、異業種のベストプラクティス)」を繰り返し、「暗黙知」を共有化。
- (4) できるだけ簡単な形(トレード・オフ)にして、実験、修正を繰り返して、「標準化」に役立てる。付加価値の標準化も目指す。
- (5) 教職員一人ひとりの能力向上(「5S」と「基礎教育」が「改善活動」の前提)
 - 「観察能力」(何が問題か、問題点の発見能力)
 - 「分析能力」(本当の原因は何か、原因の推定能力)
 - 「判断能力」
 - 〔 (ア)とりあえずどうするか、応急措置能力
(イ)中・長期的にどうするか、システム変更能力 〕
- (6) 品質向上のステップ(統計的手法も活用)
 - まずは、「あたりまえ品質」を目指す
 - 次に、「魅力的品質」を目指す
 - 最後は、「ダントツ品質」を目指す
- (7) 「教え方日本一」が開倫塾の行動方針
 - 1つ1つのカリキュラムが「日本一か否か会議」開催(年2回)
 - 「事業部ごとの検討会議」開催(毎月)

Q6：教育の質で第2番目にあげた「先生の質」について、次におうかがいします。開倫塾にはどのような「先生」がいますか。

A：開倫塾では、そこで学ぶ児童、生徒を「塾生」、月謝等諸経費をお支払いして頂いている方を「保護者」、開倫塾で教える人を「先生」と呼んでいます。

開倫塾には次のような先生がいると考えます。

開倫塾の先生とは

- (1) セミナー授業の先生
 - 小学部の先生
 - 中学部の先生
 - 高校部の先生
- (2) 個別指導の先生
 - 小学部の先生
 - 中学部の先生
 - 高校部の先生
- (3) 開倫塾のあらゆる教材やテスト、教育関係の配布物を作成、印刷、分析、情報処理する先

生

(4) 校長先生、副校長先生

(5) 教務本部長先生、教科リーダーの先生

(6) 地区本部長先生、ブロック長先生

(7) 小学部長先生、中学部長先生、高校部長先生、個別指導部長先生、総務部長先生

(8) 塾長

* 以上、すべての先生がそれぞれの立場、権限と責任で開倫塾の「教育の質」を支えています。

Q7：開倫塾の先生の行動目標は何ですか。

A：開倫塾の先生の行動目標は次の唯一つです。

— 開倫塾の先生の行動目標 —

(1) 教え方日本一

Q8：「教え方日本一」を目指して開倫塾の先生は具体的には何をしていますか。

A：「教え方日本一」を目指して開倫塾の先生がすることは、次のようなことです。

— 「教え方日本一」を目指して開倫塾の先生がすること —

(1) 「LESSONプラン」に基づいた毎回の授業

LESSONプランは「授業の設計」図

テキストは同じでも塾生の構成はクラスごとに異なるので、LESSONプランは授業ごとに書き続ける

授業中の塾生の反応や発言もLESSONプランに記入

授業後は、必ずその日の授業を振り返る(リフレクション)。その内容も朱書でメモ

板書案も予めLESSONプランに記入

「武者語り」原稿も添えること

定期的にクラスごとのLESSONプランを見直し、「リフレクション」

1 年分の「LESSONプラン」は先生としての成長の記録。保存して、毎年 1 回は見直すこと

(2) 「模擬授業」の徹底

毎日、授業前に、「導入部分」について 15 分間一人で授業を試みる

バレエのバーを用いた基礎練習と同じ。どんなベテランでも必ず毎日行くと、授業が上手になる

「全国模擬授業大会」

(ア) 2006 年からスタート。授業の導入部分の「教え方日本一」を競うもの。

(イ) 第 6 回は 2011 年 5 月 29 日(日) 11:00 ~ 17:00、足利短期大学付属高校で開催の予定。

是非、御参加、御見学下さい。御招待申し上げます。

(3) 他の先生の授業見学の奨励

Q9：開倫塾には先生の質の向上、「教え方日本一」を目指しての研修制度はないのですか。

A：開倫塾は、経営の基本理念の 1 つとして「社員重視」を掲げ、「社員重視」の実現のために「エンパワメント」(empowerment)という考えを大事にしています。英語の「エンパワメント (empowerment)」には 2 つの内容、「能力強化」と「権限委譲」が含まれるそうです。大幅に「能力を強化」した人には大幅に「権限を委譲」することで、労働生産性の向上を図る。労働生産性の向上を図ることで、「雇用の維持」と「労働条件の改善」を図るというのが開倫塾の基本的な考えです。「教え方日本一」を目指す「研修」も含め、開倫塾の研修システムはすべてこの「エンパワメント」の考え方に基づいています。

開倫塾の研修システムの基本的な考え方

- (1) 経営の基本理念の 1 つ「社員重視」の実現のためにすべての「研修」を行う
- (2) 「社員重視」の中心概念は「エンパワメント(empowerment)」
- (3) 「エンパワメント」の 2 つの意味
 - 「能力強化」
 - 「権限委譲」
- (4) 能力強化によって身につけるべき能力は「エンプロイアビリティ」(employability、雇われる能力)
 - 「経営幹部としてのエンプロイアビリティ」
 - 「中堅社員としてのエンプロイアビリティ」
 - 「一般社員としてのエンプロイアビリティ」
 - 「先生としてのエンプロイアビリティ」
- (5) 「能力が強化」され、職位に応じた「エンプロイアビリティ」が身についた人にも、「大幅な権限が委譲」される。
- (6) そのようにしてはじめて、「労働生産性の向上」が図られる。
- (7) 「労働生産性が向上」してはじめて、「雇用が維持」され、「労働条件」の改善が図られる条件が整う。開倫塾の企業としての目標は、「85 歳過ぎまで働ける職場づくり」。
- (8) すべての研修は、以上のような基本的な考え方に基づく。教え方日本一を目指す「先生としての研修」も例外ではない。

Q10：先生の研修にはどのようなものがありますか。

A：開倫塾で行っている先生としての研修は次の通りです。

開倫塾の先生の研修

- (1) 入社前研修(半年間、毎月 1 回)
- (2) 入社時研修(2 泊 3 日)
- (3) 入社後半年研修(半年間)
- (4) 各カリキュラムごとの研修
- (5) 本部や各ブロックごとの研修センターでの OFF JT 研修。各校舎での OJT 研修
- (6) 全国模擬授業大会への参加
- (7) 週に 1 度以上は「自校舎の他のクラス」、「開倫塾の他の校舎」、「同業他塾」、「異業種」で行われる授業等の視察(クラスルーム・コンパリゾン)を

Q11：開倫塾では、先生の授業評価をどのように行っていますか。

A：開倫塾では先生の授業評価を次のように行っています。

開倫塾の先生の授業評価

- (1) 塾生の授業評価
- (2) 保護者の授業評価
- (3) クレーム調査
- (4) 退塾者サーベイ(顧客不満足度調査)
 - 各講習会等の受講者の不継続者サーベイ
 - 退塾3か月後のサーベイ
 - 調査担当者から塾長へのアドバイザリーレポート(業務改善勧告書)
 - 退塾理由の共有化
- (5) 「同じ過ち」を繰り返さないしくみづくり(予防)

Q12：「不継続理由になる授業」「わかりにくい授業」「クレームの多い授業」「退塾理由になる授業」が発見された場合、開倫塾ではどのような対応をしますか。

A：開倫塾では、問題解決の手順を次のように考えています。

開倫塾の問題解決の手順

- (1) 「観察」→「分析」→「判断」の手順で考える。
- (2) 「何が問題か」→「本当の原因は何か」→「とりあえずどうしたらよいのか」→「開倫塾全体のシステムをどう変更したらよいのか」
- (3) この問題についても全く同様。
- (4) 「ベンチ入り、再デビュー」(担当クラスや学年、校舎を変え、研修を積み重ねながら別のクラスや学年、校舎で教える)という開倫塾独自の方法もある。

Q13：開倫塾では、塾生にやる気をおこさせるために取り組んでいることはありますか。

A：塾生にやる気がなければ、いくら熱心に、また、工夫を凝らして先生が教えても、学力が向上することはありません。

開倫塾では、教育成果を決定する要因を次のように考えています。

教育成果を決定する要因

- (1) 本人の自覚
- (2) 先生の力量
 - * 本人の自覚を促すことも先生の力量と考える

Q14：本人の自覚を促すために、開倫塾の先生はどのような力量を身につける努力をしていますか。

A：

「本人の自覚を促す」ための開倫塾の取り組み

- (1) 「本人の自覚を促すため」に、「武者語り」を1回の授業で3分間以上行う
- (2) 何のために勉強するのか、何のために進学するのか、学校を卒業して社会に出てからどのような仕事に就きたいのか、どのような社会的な活動がしたいのか、何のために働くのか、

何のために生きるのか、どのような生き方がしたいのか、今やっている勉強は役に立つのか、どのように勉強したらよいのか、「学習の 3 段階理論」とは何か、部活動と勉強とをどう両立するか、どんな本を読んだらよいのか、などなど……、「本人の自覚を促す」内容としてふさわしいことを 3 分以上熱く語り続けることは、開倫塾の先生の義務事項

(3)「武者語り」の内容は、事前に文章としてまとめること。スラスラ言えるようになるまで練習すること。「武者語り」が終わったら「リフレクション」(振り返り)をし、文章を整え、塾生に配付すること

(4)是非伝えたい内容は何回でも「武者語り」を続けること

(5)どうしても伝えたいことは、校舎通信などを活用して「広報活動」をすること

(6)各学期の初めの授業と終わりの授業、講習会や特別授業の初めの授業と終わりの授業では 1 時間位「武者語り」をして、さらに「本人の自覚を促す」こと

(7)「武者語り」の参考資料として、塾長の個人ホームページを活用すること www.kairin.co.jp

Q15：塾生や保護者との個別面談や保護者会、教育情報講演会、教育相談はありますか。

A：はい、あります。

開倫塾の教育相談

(1)塾生個別面談 (1 学期 1 回)

(2)保護者個別面談 (1 学期 1 回)

(3)保護者会 (1 学期 1 回)

(4)教育講演会 (随時)

(5)開倫教育相談室

(6)DTS(Daily Telephone Service デイリー・テレフォン・サービス)

* 気になる塾生には、毎日でも電話をかけ、励まし続ける。

Q16：開倫教育相談室とは何ですか。

A：はい、次のような内容です。

開倫教育相談室

(1)開倫塾の附属機関である開倫研究所に併設。塾長室直轄の問題解決型教育相談室。

(2)不登校やいじめなど、校舎段階では解決が難しい相談に応じる。

(3)ベテランの専門相談員、2 人の先生が担当

(4)教育相談費用は交通費も含め一切無料

(5)秘密厳守

(6)塾生でなくても無料、秘密厳守で相談に乗ります。

(7)連絡先 開倫塾全校舎、0284-73-7812 塾長室室長 高尾先生

Q17：教育の質の 3 番目の「マネジメントの質」とは何ですか。

A：開倫塾では、マネジメントとは「経営」を意味します。

開倫塾の「マネジメント」、「経営」とは

(1)経営とは営みを経て「目的」・「目標」を達すること

- (2)「目的」とは到達点、ゴール
- (3)「目標」とは「目的」に到達するまでの「道しるべ」、「マイルストーン」(一里塚)
- (4)「目的」地に到達するために1つ1つの「目標」をクリアする「営み」が「経営」
- (5)すべてのことに「経営」はある

Q18：教育の質の3番目の「マネジメント」として、どのようなものを大切なものと考えていますか。

A：開倫塾で大切と考えているマネジメントの質は、次のようなものです。

開倫塾のマネジメント

(1)地域のマネジメント

- 校舎のマネジメント (校長)
- 地区本部のマネジメント (地区本部長)
- ブロックのマネジメント (ブロック担当部長)...群馬、茨城、NASU、宇都宮、栃木南
- 開倫塾の校舎全体のマネジメント(校舎運営部長)

(2)事業部のマネジメント

- 小学部のマネジメント (小学部長)
- 中学部のマネジメント (中学部長)
- 高校部のマネジメント (高校部長)
- 個別指導部のマネジメント(個別指導部長)
- 総務部のマネジメント (総務部長)
- 開倫塾全体のマネジメント(塾長)



(3)教務本部(開倫塾の全カリキュラムをPDCAで回す)

(4)テストセンター(開倫模試の作成、実施、分析、処理)

(5)教材・印刷センター(教材の作成、印刷)

(6)総務部(財務、入出金管理、塾生管理、人事管理、新校舎開拓)

(7)塾長室(開倫研究所、CSR、社会貢献活動推進、経営品質担当)

(8)コンピュータシステムの最大活用

コンピュータを頻繁に使用する部署では、2年に1回以上最新のものと入れ換える
その他のコンピュータも3年に1度はすべて入れ換え、業務の効率化を図る

(9)すべての担当者は、次の担当者を確認し、教育する義務を負う

(10)いつも最悪の状態を想定して準備を怠らない

(11)開倫塾は倒産しない会社づくりを目指す—永続する企業になるためには—

規律ある人材が、 規律ある考えに基づき、 規律ある行動をすること
(コリンズ著「ビジョナリー・カンパニー」第3巻、日経PB社を参考にした)

Q19：開倫塾のマネジメントの質の向上のために、最も力を入れて行っていることは何ですか。

A：開倫塾のマネジメントの質の向上のために取り組んでいるのは次の諸点です。

開倫塾のマネジメントの質の向上のために――

- (1) 経営情報の共有(「透明性の確保」Transparency トラレスペランシー)
 - 塾生数 毎週 1 回開示
 - 売上 毎月 1 回開示
 - 継続者数 毎月 1 回開示(講習時は、毎週 1 回開示)
 - 様々な経営指標の開示
- (2) 社内および同業他塾、異業種のベストプラクティスのベンチマークによる暗黙知の共有→標準化のための実験
- (3) 部長会議、地区本部長会議、校長会議、校舎会議、教務会議等、様々な会議における発言は自由。「耳に痛いことを言う人は尊い」。但し、決定はその場の責任者が迅速に一人で行う。クサイものにはフタ、問題点の先送りは絶対禁止。
- (4) 責任者は、決定に至ったプロセス、理由をわかりやすく、丁寧に説明する責任を負う。
(説明責任 accountability、アカウンタビリティ)

Q20：最後にお聞きします。開倫塾はTQM(Total Quality Management 総合的品質経営)を目指しているそうですね。

A：はい。開倫塾は経営品質向上による卓越した業績を「目的」に経営を行っております。経営品質向上という「目的」達成のために、様々な「目標(マイルストーン)」をクリアしていかなければなりません。「経営」とは、営みを経て目的や目標を達成することですからね。まずは「5S」、次に「基礎教育」、さらに「標準化」、「改善活動」、「戦略的方針管理」、「分析的手法」、「ISO29990(非正規教育の国際標準)」、「デミング賞」と 1 つ 1 つの目標をクリアしながら TQM を最後の「目標」にし、最終的には「経営品質向上」という「目的」を達したく考えます。開倫塾では「TQM」を「経営品質」向上の最重要ツールにしたいと考えます。ただし、開倫塾は「賞」や「資格」を取得することを目的にはしません。経営の質を高め永続する企業づくりが大切と考えます。

開倫塾の「TQM」への取り組み――

- (1) 「5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)」
- (2) 「基礎教育」
- (3) 「標準化」
- (4) 「改善活動」
- (5) 「戦略的方針管理」
- (6) 「分析的手法」
- (7) 「ISO29990(非正規教育の国際標準)」
- (8) 「デミング賞」
- (9) 「TMQ(総合的品質経営)」
- (10) 「経営品質」向上

御清聴を感謝申し上げます。御質問があれば遠慮なくどうぞ。

感謝

— 2011 年 1 月 24 日 —

毎週土曜日 午前 9 時 15 分～ 9 時 25 分放送

2010 年 12 月 28 日

午前 9:20 ～ 9:30

CRT 両毛支局にて収録

「理解」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(1) -

開倫塾

塾長 林 明夫

* CRT のスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加え、お読みになりやすいように QandA の形で書き直してみました。

1 . はじめに

明けましておめでとうございます。開倫塾塾長の林明夫です。今年も 1 月 1 日から「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今回は、新年第 1 回目の放送であり、また、本年 3 月には「開倫塾の時間」の放送開始から 25 年目を迎えますので、「効果の上がる勉強の仕方」をお伝えするという「開倫塾の時間」の原点に返り、長年お話してきた「学習の 3 段階理論」についてお話いたします。

2 . 学習の 3 段階理論とは

Q : 「学習の 3 段階理論」はどのようにしてできたのですか。

A : (林明夫。以下略)

(1) 世の中には、同じ内容を勉強していながら、よい成績を取る人と余りよい成績が取れない人がいます。同じ試験を受けても合格する人と合格しない人がいます。それは何故(なぜ)か、皆様は考えたことがありますか。

(2) 私は、開倫塾を始めて 31 年になります。開倫塾を始める前も大学生の時から 10 年ぐらい学習塾や予備校の講師、家庭教師をしていましたので、合わせて 40 年近く、どうすれば塾生の皆様がよい成績が取れるようになるのか、どうすれば塾生の皆様が自分の希望する学校—開倫塾では自分の行きたい学校を「一流校」と呼んでいます—に進学できるかを考え続けてきたことになりますね。

(3) ずっとずっと考え続けてはっきりしてきたことは、よい成績を取る人は自分なりの勉強の仕方を身につけているということです。逆に言えば、余りよい成績が取れない人は自分なりの勉強の仕方を身につけていないということです。

(4) そこで、開倫塾を始めてしばらくして開倫塾の教育目標を定めるときに、その中にはっきり示そうと「自己学習能力の育成」(自分で学習する能力を育み育てること)を入れさせていただきました。CRT ラジオ栃木放送から毎週土曜日の午後に生番組で「開倫塾の時間」という番組を作り、スポンサーになるよう御依頼があったときに、「効果の上がる勉強の仕方」という内容であればと受諾させていただきました。

(5) どうすれば「効果の上がる勉強」ができるのかということを、塾生の皆様にも、保護者の皆様

にも、放送等を聴いて下さる地域社会の皆様にも、ビジネスパートナーの皆様にも、そして何よりも開倫塾の先生方にわかりやすく御説明してわかっていただき、それを身につけて家や学校で勉強するときにも試験や実生活でも役立てていただこうと、できるだけ具体的にお示ししたのがこの「学習の３段階理論」です。

(6)どのようにして「学習の３段階理論」ができたか。私は小学生のころから勉強することが大好きでしたので、勉強の仕方には大きな関心がありました。中学校、高校、大学ではよく勉強する人を身近に数多く見、また、学習塾や予備校の講師、家庭教師として仕事をさせていただいている間も、開倫塾を始めさせていただいてからも数多くの塾生の方々と接し、また、開倫塾以外でも素晴らしい勉強を毎日のようにさせていただいておりますので、それらをすべてまとめさせていただいたのが「学習の３段階理論」です。20年以上前から少しずつまとめ始め、CRT ラジオ栃木放送や開倫塾、講師を依頼された大学院、大学、短期大学、専門学校、高校、中学校、小学校、教育委員会、企業、NPO などありとあらゆるところでお話させていただき、皆様から御意見をいただきながら少しずつまとめ直しているのが、この「学習の３段階理論」です。

(7)これをまとめている今日は2010年の大晦(おおつごもり)、一年の最終日12月31日ですので、これは2010年12月31日現在の「学習の３段階理論」と言えます。この「学習の３段階理論」は、これからも少しずつ進化していくかもしれませんね。このような経緯や意味で「学習の３段階理論」ができ上がり、また、考えられておりますので、どうかこの文章をお読みの皆様も自分なりの「勉強の仕方」を考え、身につける上で、この「学習の３段階理論」を参考にいただければありがたく思います。

Q:「学習の３段階理論」はどのような内容ですか。

A:学習を「理解」、「定着」、「応用」の「３つ」の「段階」に分け、その１つ１つの段階の意味を考え「定義」した上で、１つ１つの段階ごとに具体的にどのような「勉強の仕方」をしたらよいかを考えたものです。

Q:第１段階の「理解」とは何ですか。

A:(1)「理解」とは、今学習していること(内容)が「うんなるほど」と「よくわかること」、「納得できること」、「腑(ふ)に落ちること」を言います。

(2)学習する人にとって、「理解」は自分自身で学ぶこと(自学自習)でもできますし、学校や開倫塾などで先生から教わること、つまり授業を通してでもできます。つまり、「理解」の場面は、自分自身で行う「自習」と先生からの「授業」との２つがあるということです。

Q:「授業」での「理解」のポイントは何ですか。

A:(1)授業中は姿勢を正し、手を机の上に置いて先生の目を見つめ、先生の授業を一語一句聞き漏(も)らさないように真剣に聞くことです。

(2)授業を「欠席」「遅刻」「早退」すると、教室に不在(いない)の間は先生の授業を受けられません。授業中に「私語つまりおしゃべり」や「居眠り」「携帯電話」「他のことを考えていること」「ボーッとしていること」「授業以外のことをしていること」は、授業での「理解」の「妨げ」となります。また、他の人が授業で「理解」をすることの「妨げ」となりますので、できるだけ避ける、できれば「絶対にしない」よう心掛けるべきです。

(3)授業には先生の指示で積極的に参加し、授業での「理解」を促進しましょう。「友人と話し合いましょう」「ペアワークをしましょう」「実験・観察をしましょう」「調べましょう」「練

習をしましょう」などと積極的な行動に出ることを先生が指示したときには、その指示に従った行動をして下さいね。

- (4)授業中に、必要と思われることは「ノート」にどんどん「メモ」をすることも必ず行って下さい。板書事項つまり先生が黒板に書いたことだけでなく、先生が授業中にお話して下さったことは一語残らずノートを取り続けるのも、ノートの取り方の一つの方法です。

Q：「ノート」を取ることに、「メモ」を取ることは大切なのですね。

A：(1)はい。人が話していることをすべてメモできる、ノートに取れることは大切な能力の一つです。

- (2)例えば、私は、ロシア語で人から話を聞いたり授業を受けたりした内容は一言もノートに取れないと思います。日本語で聞いたり授業を受けたりした内容は、余り難しくない内容で、また、ゆっくり話して下さった場合にはノートに取れることが多いかもしれません。つまり、私はロシア語ではメモやノートを取ることができない、ロシア語でノートを取る能力はありませんが、日本語ではメモやノートを取ることができる、つまり日本語でメモやノートを取る能力があると言えます。

- (3)その言語でメモやノートが取れるのは大切な能力の一つだと私は思います。

- (4)仕事をする上での教科書はほとんどありませんので、いろいろな人々から教えていただいたり、話し合った内容を正確にメモし続けて仕事を身につけたりして、仕事の上での約束を守ることが求められます。メモを取る能力は仕事をする上で役に立ちます。メモが取れない人はよい仕事ができない。メモがよく取れてメモをよく身につけた人は、よい仕事ができる。仕事はメモで身につける。仕事以外の社会的活動でもメモを取ることは大切です。

- (5)学校の授業でノートを取ることでできる能力を身につけることは、社会に出て仕事や様々な活動をする際に大切なことをメモし、自分の社会人としての責任を果たすことに役に立ちます。

Q：なぜ「ノート」や「メモ」は取らなければならないのですか。

A：(1)「うんなるほど」と「理解」したことも、あとになると忘れてしまうことが多いからです。

- (2)ものごとを「うんなるほどと理解できること」と、それを「覚えておくこと」、「身につけること」とは別のことと考えた方がよい場合が多いように私は考えます。

- (3)もちろん、印象深いことや物語のようなお話は後々まで「記憶(きおく)」の痕跡(こんせき)が残り、ずっと「覚えておく」こと、いつまでも「忘れない」こともあるかもしれません。

- (4)しかし、授業で学んだこと、仕事の上で教えていただいたこと、話し合ったり打ち合わせをした内容のすべてをずっと覚えている、いつまでも忘れないでいることは余りできないのではないかと私は考えます。

- (5)ですから、授業や仕事、社会的な活動で大切なことはしっかりノートに取ったり、メモをして、いつでも見ることでできるようにしておくことが大切だと私は考えます。

Q：ノートに取ったことやメモをしたことはどうしたらよいのですか。

A：(1)授業が終わった後、人からいろいろなことを教わった後、仕事や社会的な活動で話し合いや約束ごとをした後に、その「ノート」や「メモ」をもう一回見直し、その内容をよく思い出して必要なことを書き足したり、後で見やすいようによく整理することをお勧めします。

- (2)大切なところはマークを引く、下に線を引く、線で囲むと見易くなります。

- (3)項目を下のように分けることを学ぶことも大切です。

(4)一番大きな項目は 、 、 、

- 1 .
2 .
(1)
(2)
(3)

- ・次は 1、2、3、4
- ・その下は(1)、(2)、(3)、(4).....
- ・更に 、 、 、
と分けていくことが多いようです。
- ・1、2...の次は 、 、 ...ではなくて(1)、(2)...です。 、 は、(1)、(2)の次にきます。
- ・学校の教科書をよく見て下さい。参考になりますよ。

Q：自学自習つまり自分一人で勉強しても、「理解」はできるのですね。

A：(1)はい。学校の教科書や副読本、資料集、開倫塾のテキスト、副教材、図書館の本、本屋さんで売っている参考書などを自学自習つまり自分一人で勉強することでも、「うんなるほど」と「理解」はできます。

(2)大切なことは、何で勉強するのかをはっきり決めることです。あれもこれもと世の中にあるすべての本や本以外の教材を用いることはできません。自分はこの科目・この分野はこれで勉強して「うんなるほど」と「理解」するのだと、一冊、一種類の教材をはっきり決定することです。

(3)何を用いて勉強したらよいかかわからない人は、とりあえず今勉強している学校の教科書や、皆様は開倫塾で勉強しているのですから開倫塾のテキストを用いることをお勧めします。

(4)教材を決定することが第一ですね。

Q：自分はこれで勉強するのだという教材を決めたら、次はどうしたらよいのですか。

A：(1)学校や開倫塾の授業中に先生から授業を受けるような真剣さで、教材の一語一句をゆるがせにせず、「ああ、これはこういうことなのか」「うんなるほど」と実感するまで「理解」に励むこと。ゆっくりゆっくりと一語一語のことばを噛み締めながら、「そうか、そういうことなのか」と読み進めることが最も大切です。とにかくゆっくりゆっくり読むことです。

(2)そして、よくわからない「語句」や「内容」が出てきたら、サーッと飛ばして先に進まないこと。よくわからなくて「気持ちがよくない」と思い、その前や後の文章や内容をよく読み、それはどのようなことなのかその「語句」や「内容」を推測(すいそく)することが大切です。

(3)それでもよくわからなければ、「辞書」(国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典など)を引いて引いて引きまくり、「ことば」や「語句」の意味を調べまくることです。調べた内容は、科目用の「ノート」や「語句ノート」に必ずメモし、記録をしておくこと。教科書に意味を書き込むことは避けましょう。

Q：「語句ノート」はどのように用いたらよいのですか。

A：「語句ノート」は、毎日1回、最初のページからゆっくり読み直し、語句の意味を正確に身につけること、つまり、この次に出てくる「定着」(スラスラ口をついて正確に言えるように「音読練習」をする。正確に楷書で書けるまで「書き取り練習」をする)させることが大切です。

Q：「ことば」や「語句」の意味は辞書で「理解」できても、内容が難しくてよくわからない場合に

はどうしたらよいのですか。

A : (1) 学年別参考書を辞書の代わりに用いて、その内容を「理解」することが大切です。

(2) 参考書は、説明がやさしい表現で詳しく書かれているものがお勧めです。

(3) 内容がよくわからない場合には、学年別の説明が丁寧な参考書を辞書代わりに用いることがここでの勉強のコツです。

Q : 学校や開倫塾の教科書など自分で決めた教材を辞書と参考書を用いて自分の力でひたすら「理解」し続ける勉強の方法は、予習でも復習でも使えそうですね。

A : (1) はい。その通りです。ところで、予習は何のためにするのだと皆様はお考えですか。私は、今述べたような方法で、学校や開倫塾の先生方の授業をお聴きするような真剣さで、教科書の一行一行を一語一句ゆるがせにしないで「うなるほど」「そうか、これはこのようなことだったのか」と「理解」し、よくわからない「ことば」や「語句」は辞書で、「内容」は学年別の説明の丁寧な参考書を辞書代わりに用いて、「理解」し尽くすことが予習の第一歩と考えます。

(2) そして、どうしても自分の力では「うなるほど」と「理解」できないところは何かをはっきりさせる、明確にする、つまり問題意識をもって授業に臨むことが予習の目的と考えます。

(3) 予習をすることでわからないことを自分の力ではっきりさせてから授業に臨むというこの勉強の方法は、皆様が将来、大学や大学院で勉強したり研究したりするときにも、また、社会に出て企業や様々な場所でものごとを学んだり取り組んだりするときにもとても役に立ちますよ。予習をすることの意味をはっきり自覚し、将来に備えて下さいね。

(4) 一度授業を受けた後の復習でも、先生の授業を聴くような真剣さで、教科書を一語一句ゆるがせにしないでゆっくりゆっくり「うなるほど」と「理解」するまで読み込む。わからない「語句」は「辞書」、わからない「内容」は「学年別参考書」で「理解」に励むという、この勉強の仕方は役に立ちます。

(5) このような方法で復習をしてもよくわからない、「理解」できないことがあれば、学校や開倫塾の先生にどうか遠慮なく質問して下さいね。わからないこと、「理解」できないことを残さないことも大切な勉強の方法です。

(6) それまでのことがすべて 100%「理解」できていれば、次のことがよく「理解」できる場合が多いと考えます。新しいことを完全に「理解」するために最も求められるのは、それまでに学んだことをよく「理解」していることです。

(7) 新しいことを 100%完全に「理解」するためには、それまでのことを 100%「理解」し、できれば「理解」した内容を正確に身につけていること、次に出てくる「定着」していることが大切と考えます。

(8) この考え方を完全修得理論(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリー)と呼びます。例えば、教科書の 60 ページから 65 ページまでを完全に「うなるほど」と「授業」や「自学自習」で「理解」したいならば、それまでに勉強したはずの 1 ページから 59 ページまでをすべて「うなるほど」と完全に「理解」し、できればすべて身につける(「定着」させる)ように努力しておいた方がよいということです。

Q : お話が随分本格的になってきましたね。

A : はい。「うなるほど」と「よくわかる」「腑(ふ)に落ちる」という意味での「理解」も、よく考えれば、いろいろな考え方、やり方があるということです。この「理解」についてお伝えしたい

ことはまだまだたくさんありますが、少し長くなりましたので、「学習の 3 段階理論」の第 1 段階である「理解」のお話は今回はこれでおしまいにしましょう。

3．おわりに

(1) 次回の CRT 栃木放送「開倫塾の時間」2011 年 1 月 8 日土曜日午前 9 時 15 分から 9 時 25 分までの放送では、「学習の 3 段階理論」の第 2 段階である「定着」について御説明させていただきます。

(2) 上の文章は、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の林明夫のコーナーの CRT 栃木放送「開倫塾の時間」のページでも公開しております。他の「開倫塾の時間」の内容の文章とともに是非御覧下さい。

(3) 本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

* 長い文章を最後までお読みいただき、感謝申し上げます。

感謝

— 2010 年 12 月 31 日記 —

毎週土曜日 午前 9 時 15 分～ 9 時 25 分放送

2010 年 12 月 28 日

午前 9:35 ～ 9:45

CRT 両毛支局にて収録

「定着」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(2) -

開倫塾

塾長 林 明夫

* 1 月 1 日の放送内容に引き続き、CRT のスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加え、お読みになりやすいように QandA の形で書き直してみました。

1 . はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)この「開倫塾の時間」では、社会人も含めて「効果の上がる勉強の仕方」を放送をお聴きの皆様と一緒に考えております。今回は、前回(1 月 1 日)に引き続き学習を「理解」→「定着」→「応用」の 3 つの段階に分け、その段階ごとに何をどのようにしたらよいのかを考える「学習の 3 段階理論」に基づいて、どうしたら「効果の上がる勉強」ができるかを考えます。

(3)前回は学習の第 1 段階の「理解」について取り上げましたので、今回は第 2 段階の「定着」について考えます。

2 . 「定着」とは何かを考える

Q : 「学習の 3 段階理論」の第 2 段階である「定着」とは何ですか。

A : (林明夫。以下略)「定着」とは、「そうか、これはこういうことだったのか」と一度「うんなるほど」と「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」ことを「スミからスミまで正確に身につける」ことを言います。

Q : なぜ「定着」が大事なのですか。ものごとは「うんなるほど」と「理解」すれば十分なのではないですか。

A : (1)素晴らしい質問ですね。この放送をお聴きの皆様の中にも、また、この文章を今お読みの皆様の中にも、「うんなるほど」と「よくわかった」つまり「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」という意味での「定着」など必要ないとお考えの方もたくさんいらっしゃるのではないかと推測されます。

(2)なぜ一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」という意味での「定着」が大切なのか。それは、いくら熱心に、一所懸命に、真剣に学校や開倫塾の先生のお話を授業中に聴いて「うんなるほど」と「理解」しても、また、自学自習つまり自分で教科書を熱心に勉強して「そうか、これはこのようなことなのか」と「うんなるほど」

と「理解」しても、「理解」した内容の全部とは言いませんが、その多くを忘れてしまうことが多いからです。先生が授業中にお話したことを一言残らずノートにメモし続けても、また、よくわからないことばや内容を辞書や参考書などを用いて調べその内容をノートに書き写しても、全部とは言いませんがその多くを忘れてしまうことが多いからです。そうでない人もいるかもしれませんが、「理解」したことすべてを忘れることのない人は余りいないと私には思えます。

(3)頭がよい人は忘れることはなく、頭が余りよくない人は忘れやすいという考えに、私は賛成しません。そもそも頭がよい、余りよくないという考えにも私は賛成しません。テストなどでよい成績を取る人は、よく勉強した人です。よい成績が取れない人は、勉強が足りなかっただけです。勉強した人は成績がよく、勉強が足りない人はよい成績を取ることが余りない。よい成績を取りたかったら勉強をすればよいだけです。

(4)学校のテストや入学試験、様々な試験でよい点数が取れる人、「あの人はよく勉強しているね、学力が高いね」と社会に出てからも言われる人は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につけている」「定着」させている人であると言えます。

(5)なぜ「うんなるほど」と「理解」したことを「定着」させた方がよいかと言えば、学力を身につけて、学校のテストや入学試験をはじめ様々な試験でよい点数を取るため、よい点数を取って自分の人生の選択肢を広げるためです。(よい点数が取れば希望する学校に入学することもできるし、その学校で一定の成績・点数が取ればその学校を卒業することもできます。よい点数を取れば資格試験や就職試験に合格できますので、自分の就きたい仕事に就いたり、自分の希望する職場で働くこともできます。)一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」「定着」させることは、試験で求められるだけのよい成績を取るためには必ず必要です。

(6)社会で活動するためには、仕事や社会活動に必要な知識をよく「理解」した上で正確に身につけておく必要があります。

例えば、自動車を運転するときには、自動車の運転免許証を取るための試験に合格することがもちろん必要です。試験に合格した後も、1つ1つの道路標識が何を意味するかを「うんなるほど」とよく「理解」して正確に身につけてから運転しないと、道路交通法違反で罰せられることもあるし、事故を起こすことにもなります。進入禁止の道路標識を一度は「うんなるほど」と「理解」はしていても、その標識の意味を忘れてしまい進入禁止の道路標識のある道路に進入すれば、向こうから来る自動車と正面衝突をして死亡事故を起こすことすら考えられます。

(7)現代は「知識が基盤となった社会」つまり「知識基盤社会」ですので、社会に必要な高度な「知識や情報、技術」の1つ1つの意味を「うんなるほど」とよく「理解」し「正確に身につける」「定着」した上で、それらをうまく組み合わせながら用いる能力が求められます。社会に出て生涯にわたって活動するときこそ一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に身につける」「定着」させることが大切と、私は強く皆さんに訴えたく思います。

Q：では、どのようにしたら一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に身につける」「定着」させることができますか。できるだけ詳しく、また、わかりやすく説明して下さい。

A：(1)私は、「定着」には3つの段階があると考えます。

(2)「定着」の1つめは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、「スラスラ口をついて正確に言えるようにすること」です。

- (3)「○○とは何ですか」と聞かれたら「○○とは ということです」と「スラスラ口について正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップです。
- (4)英語の文章をその日に10 勉強したら、その意味を「うんなるほど」とよく「理解」した上で、その文章を「何も見ないでスラスラ正確に言えるようにすること」。これが「定着」の第1ステップです。
- (5)「日本国憲法の三大原理」とは「国民主権と平和主義、基本的人権の尊重である」ということを社会の授業で勉強し、「日本国憲法」「三大原理」「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の1つ1つのことばの意味やその内容を「うんなるほど」とよく「理解」したら、次に「日本国憲法の三大原理とは国民主権、平和主義、基本的人権の尊重である」と「何も見ないでスラスラ口について正確に言えるまでにすること」が、「定着」の第1ステップです。
- (6)すべての科目について、このように一度「うんなるほど」とよく「理解」したことが「スラスラ口について正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップと考えて下さいね。

Q：一度「うんなるほど」とよく「理解」したことを「何も見ないでスラスラ口について正確に言えるようにする」にはどうしたらよいのですか。

A：(1)学校や開倫塾の教科書やテキスト、授業中に取ったノートやメモ、語句ノートを、ジーンと何回も何十回も見つめてすべて覚えてしまうことも非常に役に立ちます。是非折に触れて、今まで授業や自学自習で勉強したところまでの教科書やノート、参考書や様々な教材をジーンと何回も何十回も、もっと言えば何百回も最初のページから読み直してみてください。必ず、「何も見ないでスラスラ口について言える」ようになります。

(2)ただ、もっとよい方法もあります。それは声を出して読むことです。一度「うんなるほど」と「理解」したことが書いてある教科書やノート、参考書などを、大きな声を出して何回も何十回も何百回も繰り返し繰り返し読む練習をすることです。「絶対にスミからスミまで口をついて正確に言えるようにするぞ」と決意して、声を出して読む「音読練習」を繰り返すことです。「スミからスミまで口をついて正確に言えるまでにすること」と決意し、願いを込めて「音読練習」を繰り返すことです。何回も何回も音読すれば、必ず正確に言えるまでになりますよ。この「音読練習」を繰り返し、一度「理解」したことが「スラスラ口について正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップです。

Q：「定着」の第2ステップは何ですか。

A：(1)一度「うんなるほど」と「理解」したことが、「音読練習」などをして「何も見ないでスラスラ口について正確に言える」ようになったら、「何も見ないで楷書(かいしょ)で正確に書けるまでにすること」。これが「定着」の第2ステップです。

(2)「何も見ないでスラスラ正確に言えること」も素晴らしいですが、それらがすべて正確に楷書で書けるようになればもっと素晴らしい。文字という手段で、自分が身につけた知識を書き表すことができるからです。他人にも、文字でものごとを正確に伝えられるようになるからです。

(3)学校のテストや入学試験、資格試験や採用試験には筆記試験が課され、今までに学んだことが正確に書けるかどうかという出題が多いことは厳然たる事実です。自分の人生における選択肢を広げるために、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に楷書で書けるようにすること」は大切なことです。

(4)学校以外の生活や仕事、活動の場でも「正確に楷書で書けること」は欠かせませんね。

- (5)どのようにしたらよいかといえば、「書き取り練習」が一番効果的です。
- (6)一度「うんなるほど」と「理解」し、それを「音読練習」で「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるようにする」。これができたら、まずは何も見ないでその内容をすべて書いてみましょう。すべて正確に書けたら OK ですが、よく書けない語句があったらこの語句だけでもいいですから「書き取り練習」を繰り返す。正確に書けるようになったら「何も見ないでスラスラ口をついて言えるまでになった」内容をもう一度書いてみることをお勧めします。
- (7)楷書(かいしょ)とは、漢字の書体の一つで点画(漢字の点と画)をくずさない書き方です。教科書で用いられている書き方なので一度は身につけて下さいね。点や画を略した草書(そうしょ)や、楷書と草書の中間の行書(ぎょうしょ)という書体もありますが、まずは点画をくずさない楷書を学校や開倫塾の教科書・テキストを用いて身につけて下さいね。
- (8)英語は、ブロック体と筆記体をペンマンシップや学校の教科書や開倫塾のテキストを用いて正確に身につけた上で、語句の読み方とスペリング(綴字、つづりじ)を確実に身につけて下さいね。

語句の読み方は、教科書の CD や辞書に出ている発音記号を用いて、何回も何回も「音読練習」をして身につけて下さいね。

- (9)日本人が世界の人々から高く評価されることの 1 つは、英語の文字や数字を非常に美しく書くことができるということです。

日本では習字が非常にさかんで、小学生のうちから文字を美しく書く訓練をしているせいか、アルファベットや数字も非常に美しく書くことができる日本人が多く、余りに美しい文字を書くので世界の人々から高く評価されます。美しい文字を書くことのできる人は、高い知性、高い教養の持ち主であると考える人が外国では多いからです。(あんなに美しい文字で書けるのに、話せる英語は簡単なあいさつや単語だけだとびっくりされないようにがんばりましょうね)

- (10)ブロック体しか書けない人は、サインを真似(まね)されやすいので、外国で詐欺(さぎ)事件に巻き込まれやすい、犯罪の被害者になりやすいと言われています。ブロック体だけではなく筆記体も必ず練習して、せめて自分の名前だけでもいつも同一の筆記体の書体でスラスラ書けるまで何百回も「書き取り練習」を繰り返しましょうね。

外国の人が筆記体で書いた文字や文章を読まなければならないことも、外国の人とコミュニケーションを取るときや外国に出掛けたときには必要となることもあります。筆記体を読み取るには筆記体が自由に書けることが役に立ちます。筆記体を書けることは、筆記体が読めることにつながることも多いので、筆記体の練習は学校を出てからもし続けて下さいね。

- (11)ちょっと脱線するかもしれませんが、英語について言えば「読んでわからないことは、聞いてもわからない」とよく言われます。英語のリスニングがどうしても難しいのは、英語の文章を読むことが難しい人の場合が多いと思われます。リスニングの能力を上げたければ、英語の文章をたくさん読み、読んでわかる能力、読解力を身につけることが大切だと私は考えます。もちろん CD を聞いたりリスニングの練習をすることも大切ですが、「読んでわからないことは、聞いてもわからない」ということも真実と思われるので、多くの英語の文章を読むことも大切と思い、真剣に行っていただきたいと私は希望します。

また、筆記体も同じで、「筆記体を書けなければ、筆記体はよく読めないことも多い」と思っています。

Q：人や土地の名前も書けるようにした方がよいのですか。

A：(1)ある教科を勉強するとき書けるまで「書き取り練習」をして知識を身につける、「定着」させた方がよいのは、「教科書に書いてあることすべて」です。

(2)「ノート」を用いて勉強するとき書けるまで「書き取り練習」をすべきなのは、「ノートに書いてあることすべて」です。

(3)ですから、当然、事物を表す語である「名詞」は、人や土地の名前などの「固有名詞」を含めて教科書に載っているものはすべて書けるまでにして下さいね。

(4)社会の地理で地名が出てきたら、必ず地図帳でその地名の場所はどこかを確認してから正確な書き方を「書き取り練習」しましょう。代表的な外国の地名は、英語での表記法も「書き取り練習」を繰り返し身につけておくといよいでしょう。

(5)歴史で歴史上の地名や年号が出てきたら、副教材の地図帳や歴史年表、教科書や参考書の地図や年表を用いて必ずその場所や年号を確認した上で、地名を正確に書けるまで、また、年号とそのときの出来事(できごと)を正確に書けるまで「書き取り練習」をすること。

(6)社会の公民や政治経済で教科書に憲法やその他の法律の条文が出てきたら、必ず教科書の最後に付録・資料として載っている条文を確かめ、ゆっくり声を出して読む「音読練習」をしてから、「書き取り練習」をして正確に書けるまでにすること。教科書に出てくる法律の条文はその法律の中でも最も大切なものが多いので、よくその意味を「理解」してから「音読練習」をして「正解に何も見ずにスラスラ言えるようにすること」、スラスラ言えるようになったら、「書き取り練習」をして「何も見ないで楷書で正確に書けるまでにすること」が学校のテストや入試試験でも役に立ちますし、また、社会に出てから生活や仕事、社会的な活動をするときには、学校時代の何十倍も役に立ちます。「法律の無知は許されず」。社会のルールとして法律があるのに、それを知らないで社会で活動するのは、ルールを無視してサッカーや様々なスポーツをするとペナルティが課せられるのと同じで、人間や企業などの行動として許されない、つまり刑罰を科されたり損害賠償を請求される原因となります。また、自分の権利が侵害されても、自分が権利を持っていることすら知らなければ大きな損害を被ることもなります。いろいろな意味で、法律を知りその意味を「理解」し、その内容をスラスラ言えるまで・正確に書けるまで「定着」させることは、自分のためにも社会のためにもなります。

(7)理科の第1分野・第2分野の教科書に出てくる内容も、すべて「うんなるほど」と「理解」した上で「音読練習」を繰り返し、「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるまでにすること」、スラスラ正確に言えるようになったら、「書き取り練習」を繰り返して「正確に書けるまでにすること」です。

物理の「○○の原理」「○○の法則」などの内容も「スラスラ言えること」、「正確に書けること」が大事。化学の化学記号(つまり化学物質を示す記号、元素記号なども)や化学式もその意味をよく「理解」した上で、スラスラ言えたり、正確に書けるようにすること。生物の教科書に出てくる1つ1つの内容をよく「理解」し、「正確に言えるように」「正確に書けるように」することです。

Q：えっ、細胞や植物、動物、人体図までも正確に書けるまでにするのですか。

A：(1)教科書の上に、教科書の図が透かして見える半透明の紙(トレース紙)を置き、その上から図をなすって書き写すと覚えられます。

(2)教科書の図をトレース紙を用いてゆっくりなすって書き写し何も見ないで正確に書けるようにすることは、よい成績が取れるだけでなく、とても面白いです。この書き写しをすることで

理科が大好きになる人も多いですよ。

(3)教科書に出ている鉱物の図を書き写すことにも是非挑戦して下さいね。

(4)社会の教科書や地図帳を用いて地形を書き写すこと、書き写すことで何も見ないで地形がスラスラ書けるようになることは、地理や社会を得意科目にし、大好きにするととてもよい勉強方法です。

Q：書き写し(筆写)はよい勉強になるのですね。

A：そうですね。少し脱線しますが、私は正岡子規(まさおかしき)が好きなので、12月17日に本屋さんに行き、岩波書店から刊行されたばかりの坪内稔典著「正岡子規 - 言葉と生きる - 」(岩波新書)を読んでいたしたら、子規と同年に生まれ、後に大学予備門(今の東京大学)で同級生となる南方熊楠(みなかたくまぐす)と子規の少年時代のことが書いてありました。

(1)「小学生の熊楠(くまぐす)は友人の家に遊びにゆき、そこにある江戸時代の百科辞典『和漢三才図会』を読んだ。暗記して家に帰り、半紙を綴じた帳に書きつけた。図も暗記して書いた。熊楠(くまぐす)は3年かけて105冊のその百科辞典を写してしまった。それだけでなく、中国の植物学の事典『本草綱目』52巻(21冊)も写した。古本屋から借りた『太平記』50冊も写したし、『諸国名所図絵』『節用集』なども写した。熊楠(くまぐす)自身の言葉で言えば、「書籍を求めて、8～9歳のころより20町、30町も走りありき借覧し、ことごとく記憶し帰り、反古紙に写し出し、くりかえし読みたり(「履歴書」大正14年)ということになる。(＊1町は約109メートル)

(2)少年時代のこの恐るべき筆写が熊楠(くまぐす)の知の基礎になった。筆写が基礎的な力として働き、百科学的な学者、熊楠(くまぐす)を育てた。

(3)熊楠(くまぐす)ほどではないが、少年時代の子規もまた筆写した。

(4)「紙をよくつかふ、と言って母からさいさいぶつぶつ言われていました。大方写し物や書き物に、人一倍半紙をつかったものと見えます」

正岡律(まさおかりつ)著「家庭より観たる子規」昭和8年

(5)(正岡子規の)妹(正岡律)の回想は、筆写に熱中した子規の姿を髣髴(ほうふつ)とさせるではないか。

近所に住み子規と一緒に小学校や漢学塾に通った三並良は、貸し本を読んだ13歳ごろのことを次のように回想している。

(6)貸賃は5冊 - 昼夜が5厘(りん)で、1日の中なら何度とり代え、何冊になっても、矢張り5厘だった。我々の読んだのは、多く軍談(ぐんだん)のものであるが、馬琴(ばきん)のものも大方此の頃(このころ)読んだ。

水滸伝(すいこでん)や八犬伝(はっけんでん)の中に名文があると、子規はよく写し取って居(い)た。彼は一休和尚の伝記を幾冊も貸し本で読んで、非常に面白がって、その幾冊かを写して合本にして居るのを、私は見たことがある。彼は字が達者(たっしゃ)で写本などは苦と思わず、寧(むし)ろ楽しみにして居たのだ。

「子規の正年時代」昭和3年

年

(7)松山市の子規記念博物館に「香雲筆写」という写本が展示されている。香雲は中学時代の子規の雅号(がごう)だが、小学生から中学生にかけての子規はせっせと筆写した。いや生涯にわたってその筆写を続けたと言ってよい。

(8)子規の筆写の最たるものは、明治24年(25歳の時)ごろから始めた「俳句分類」であろう。

のちに『分類俳句全集』(昭和3～4年)全12巻として出版されるが、古今の俳句を四季、事

物、表現の形式、句調などによって分類したこの大がかりな筆写は、子規の俳句観の基礎を形成した。俳句史、俳句の表現上の特色などをこの分類を伴う筆写によって子規は身につけた。

(9)虫鳴くや俳句分類進む夜半 (明治30年)

吉原の太鼓聞こえて更くる夜に、ひとり俳句を分類すわれは (明治31年)

(10)この当時の子規は余命10年を自覚していた。筆写はいわば彼の命をその底で支えていたのかも知れない。

以上(1)～(10)、坪内稔典著「正岡子規 - 言葉と生きる - 」

岩波新書、岩波書店2010年12月17日刊P10～14より引用

俳人の正岡子規(まさおかしき)や、*後に博物学、生物学、民族学など取り組み壮大な宇宙観を開示した南方熊楠(みなかたくまぐす)は書き写し、筆写によって学力を身につけ、自分の世界を切り開いたと言えますね。

*坪内稔典著前掲書P7より引用

Q:「定着」の第3ステップは何ですか。

A:学校や開倫塾の授業や、自学自習で自分で勉強をして、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかが「うんなるほど」と「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」「計算」や「問題」について、「計算」や「問題」を見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射で正しい「答え」や「解答」が出てくるまでにすること。これが「定着」の第3ステップです。

Q:その「手順」を詳しく説明して下さい。

A:(1)学校の授業で勉強した「計算」や「問題」は、授業が終了したら必ずもう一度「答え」や「解答」を見ないでやり直して下さい。

(2)もう一度やり直してみて、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかが「うんなるほど」と「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」ら、「理解」できたと言えますね。

(3)「理解」できなかった「計算」や「問題」は、教科書や授業中のノート、参考書などをもう一度じっくり勉強し直し、「理解」できるまでにすることが大切です。

(4)自分の力ではどうしても「理解」できない場合は、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問して下さいね。勉強に遠慮は不要です。「よくわからない」つまり「理解」していないまま先に進むことは避けましょう。

(5)このようにして、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかがよくわからなかった、よく「理解」できなかった「計算」や「問題」がよく「理解」できるようになったら、もう一度自分の力でその「計算」や「問題」をやり直してみましょう。それでもわからなかったら、もう一度「理解」のための努力をし直すこと。あきらめしないで、何回でも挑戦して下さいね。

(6)なぜそのような「答え」や「解答」になったのかが「うんなるほど」とよく「理解」できたら、次にどうするのか。「計算」や「問題」を見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射で正しい「答え」や「解答」が出てくるまで何回も、何十回も練習を繰り返すことです。これを「計算・問題練習」と呼びます。

(7)大切なことは、学校や開倫塾の教科書、テキスト、問題集には絶対に「答え」や「解答」を書き込まないことです。「計算」や「問題」の「答え」や「解答」はすべてノートに書き込むことです。

(8)間違えた「計算」や「問題」の前に自分で印をつけておくことは、賢い方法です。

Q：なぜ「計算」の「答え」や「問題」の「解答」が、「計算」や「問題」を見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射で出てくるようにすることが大切なのですか。

A：(1)学校の定期テストや入学試験はじめ、世の中のありとあらゆるテストや試験には、ゆっくり時間をかければ解けるが、パッ、パッ、パッと短い時間では解くことが難しい問題が必ず出題されます。どのような試験でも試験の時間は決められていますので、よい点数を取るためには、自分で「うんなるほど」と「よくわかっている」、よく「理解」している「計算」や「問題」は見た瞬間にパッ、パッ、パッと「答え」や「解答」が出た方が時間に余裕が生まれ、時間をかければ解ける「計算」や「問題」をじっくり考える時間を確保することができるからです。時間のかかる難しい「計算」や考えさせられる「問題」を解く時間を作り出すためには、見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射でできるものが多ければ多いほどよいのです。

(2)また、社会での生活や仕事、社会的な活動をするときにも、よく「理解」している「計算」や「問題」がどんどんできる方が便利です。いちいち、これはなぜこのような「答え」や「解答」になるのか、また、どのようにこの「計算」や「問題」を解いたらよいのかを考えていては不便この上ない。ものごとが先に進まないこともたくさんあります。

(3)数学や理科の「計算」や「問題」だけでなく、英語や国語、社会の「計算」や「問題」についても、また、「音楽」「美術」「技術・家庭」「保健体育」の「計算」や「問題」についても、この「計算・問題練習」を繰り返して下さいね。

3．おわりに

Q：3つの「定着」のためには「練習」が大切なのですね。

A：(1)「学習の3段階理論」では、「音読練習」と「書き取り練習」、そして「計算・問題練習」の3つの「練習」を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

(2)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾大学の塾長を務められた小泉信三先生のことばがあります。「定着のための3大練習」は「不可能を可能にする」大きな力を皆様に与えてくれます。

(3)「定着のための3大練習」は学校の定期試験で100点満点が取れ、学校でよい成績を皆さんに取らせます。自分の行きたい学校、つまり自分にとっての「一流校」への合格を導きます。様々な資格試験、国家試験や採用試験に皆様を合格させます。皆様の人生における選択肢を広げるのが、一度「うんなるほど」とよく「理解」したことの「定着のための3大練習」です。

(4)社会に出ても役立ちます。

(5)あきらめたらおしまい。自分の未来は自分の力で切り開く。このための最も有効な手段・方法の一つが、今回お話した「定着のための3大練習」です。

— 2011年1月1日記 —

毎週土曜日 午前 9 時 15 分～9 時 25 分放送

2011 年 1 月 12 日

午前 9:20～9:30

CRT 両毛支局にて収録

「応用」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(3) -

開倫塾

塾長 林 明夫

* 「応用」について、CRT 栃木放送「開倫塾の時間」でお話する内容に大幅に加筆をして、お読みになりやすいように QandA の形でまとめてみました。どうか一項目ずつゆっくりお読みになり、御自分の勉強の仕方を考え、それを身につけるときに参考にして下さい。かなり長くなります。

1. はじめに

- (1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2) 今日 1 月 15 日(土)と明日 1 月 16 日(日)は大学入試センター試験が全国各地の受験会場で行われます。受験生の皆様のご健闘を心からお祈り申し上げます。
- (3) さて、社会人も含めて「効果の上がる勉強の仕方」をお話させていただいているこの CRT の「開倫塾の時間」も、おかげさまでこの 3 月で 25 年目を迎えます。記念すべき 25 周年を迎えるのが 2011 年ですので、本年 1 月 1 日の土曜から「開倫塾の時間」の原点に戻り、私がこの番組で 24 年間お話してきた、年齢や性別、出身に関係なくだれでも、いつからでも、どんな場所でも学力が身につく勉強の仕方をまとめ上げた「学習の 3 段階理論」をご紹介します。お待ちしております。
- (4) 「学習の 3 段階理論」というのは、学習を「理解」→「定着」→「応用」の「3 段階」に分け、それぞれにふさわしい勉強の仕方を具体的に考えるものです。本年第 1 回の 1 月 1 日の放送では「第 1 段階」の「理解」、第 2 回の 1 月 8 日には「第 2 段階」の「定着」についてお話ししたので、本年の第 3 回目である今日 1 月 15 日は「第 3 段階」の「応用」についてお話し致します。

2. 「応用」とは何かを考える

《応用とは》

Q: 「学習の 3 段階理論」の第 3 段階である「応用」とは何ですか。

A: (林明夫。以下略)

- (1) 「応用」とは、「うんなるほど」と一度「よくわかった」つまり「理解」したことを、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための 3 大練習」などを繰り返してスミからスミまで正確に「定着」つまり身につけた上で、その身につけた内容を用いて「テストでよい点数を取ること」と「実際の生活で役に立てること」をいうと私は考えます。

(2)「理解」したことを「定着」つまり身につけ、「定着」・身につけたことを用いて「テストでよい点数を取ること」、「実際の生活で役に立てること」が「応用」と私は考えます。

《「理解」「定着」なくして「応用」なし》

Q:「応用」の手前で大切なのは、「理解」したことを「定着」つまり身につけているということですね。

A:(1)その通りです。「定着」つまり「身につける」前に、「定着」させるべき内容を「うんなるほど」と「よくわかる」つまり「理解」しておくことが大切なのも同じです。

(2)テストでよい点数を取りたかったら、テストの対策ばかりしないで、テストに出る内容についてまずは「うんなるほど」とよく「理解」しておくこと。よく「理解」したことは、スミからスミまで正確に身につけておく、「定着」させておくことが大事です。「理解」と「定着」なくして「応用なし」、つまりテストでよい点数を取ることはありません。

(3)まず、このことをよく「理解」して下さいね。「理解」したら、「応用」つまりテストのための勉強に入る前に「定着のための3大練習」を確実に「実行」して、「理解」したことをスミからスミまで正確に身につけて下さいね。これだけは、何が何でも必ずお願いします。

(4)「理解」なくして「定着」なし。「理解」、「定着」なくして「応用」なし。仕事もそうですが、勉強には「手順」が、順序、順番が大切です。

《勉強でも手順、順番は大事》

Q:「勉強でも順番が大切」なのですね。

A:(1)はい。「理解なくして定着なし」、「理解→定着なくして応用なし」です。

(2)仕事をやる時はもちろんですが、人間が一つのことをやる時には「手順」、英語でいうと Process(プロセス)、Procedure(プロシデュア)、「順序」、「順番」が大切です。AをやったらB、Bをやったら次はC、Cの次はD、Dが終わったらEと、「手順」をものごとを行う前に時間をかけてよく考えること。頭の中で考えたことは紙やノートに書き、それを見ながらさらに考えを深め、もっとよい「手順」を考えて考えて考えること。考え抜くこと。考え抜いてこれ以外にない、だから自分はこうやると「決意」したことをノートや紙に書き、自分を納得させる、つまり自分自身に「理解」させる。その「手順」を忘れないように、何回もジッと見たり、声を出して読んだり、書いてみてしっかり身につける、つまり「定着」させる。「理解」し「定着」したら、その通りやってみる、つまり「応用」する。

(3)このように、ものごとを成し遂げるには「手順」についての強いこだわりを持つことが大切です。

(4)勉強で成果を出したいのなら、「理解」→「定着」→「応用」という手順を自分自身で十分納得して身につけ、自由自在に自分のものとして用いることです。

(5)「理解なくして定着なし」、「理解→定着なくして応用なし」。この「手順」、順番だけはしっかり自分のものにして下さいね。

《テストでよい点数を取るには》

Q:「テストでよい点数を取る」ためにはどうしたらよいですか。

A:(1)テストにもいろいろあります。まずは、学校のテストについてお話ししましょうね。

(2)学校で行うテストの中で一番多く行われるのは、その日の授業内容についての「確認テスト」ですから、「確認テスト」でよい点数を取る方法を考えましょう。

「確認テスト」は、その日の内容について授業終了直前か、前回の授業内容について授業開始直後に行われることが多いと思われます。

その日の授業で先生が話したことをよく聞くこと、先生の指示にしたがって積極的に授業に参加することが最も大切です。

授業に積極的に参加して、先生の授業をよく聞き、授業の内容を「理解」すること。「理解」しながら、大切と思われることは授業時間中に少しでも自分の記憶の中にとどめるよう努力をすることです。

授業直後に「確認テスト」がある場合は、「理解」はできても授業内容のすべてを身につける、「定着」させることはなかなか難しいとは思いますが、先生は「確認テスト」直前に何分か時間を下さり、今日やったことを復習するように指示なさる場合が多いでしょうから、たとえ数分でもそのような時間があったら、精神を集中してその日のノートや教科書を全部覚えてしまいましょう。

読むことが難しそうな語句は読む練習をしましょう。書くのが難しそうな語句は書く練習を、計算・問題が難しそうなものは、授業中のノートを見てなぜそのような答え・解答になるのか確かめましょう。

Q：その日の授業の最後に行う「確認テスト」で間違えた問題があったらどうすればよいのですか。

A：(1)その日の授業終了直前に行われた確認テストで間違えた問題があったら、なぜ間違えたのか、その理由をテストが終わった後に自分でよく考えて下さいね。これを「誤答分析(ごとうぶんせき)」といいます。

(2)この「誤答分析」をして、もし「理解」が不足していたのなら、それは一体どのようなことなのか、もう一度「理解」のための取り組みをしましょう。語句の意味がよくわからなければ辞書を引いて調べる。内容がわからなければ教科書や参考書、資料集で調べる。よく「理解」はしているのだが、音読練習や書き取り練習、計算・問題練習が足りないことが原因で間違えたのなら、「定着のための3大練習」を繰り返す。

(3)学校なら授業終了直後の休み時間や放課後の教室や図書室で、開倫塾なら夜 10 時 30 分までは自習時間になっているので、その時間を有効に活用して下さいね。

《確認テストで100点を取るには》

Q：次の授業の開始時に「確認テスト」がある場合はどうしたらよいですか。

A：(1)授業直後と違って「確認テスト」のための準備時間があるので、こんなに有難い(ありがたい)ことはありません。

(2)できれば授業のあったその日のうちに、家に帰っていつも勉強する場所で、学校の教室か図書室、学校に自習室があれば自習室で、先生の授業をゆっくりと思い出しながら、学校の教科書や問題集、副教材、ノートをもう一度すべて勉強し直すこと。

(3)自分で勉強し直してみて、語句の意味がわからないものがあれば必ず辞書を引くこと、内容がわからなければ教科書や参考書、ノートなどをもう一度ゆっくり勉強し直すこと。それでもよくわからないところには印(しるし)をつけておいて、次の授業のときに先生に質問すること。

(4)その日の授業中にやった計算や問題もすべてやり直すこと。やり直していてもどうしても解けないものがあれば、教科書や参考書、ノートをもう一回ゆっくり読み直すこと。それでもわからなければ印をつけておき、次の授業のときに先生に質問すること。学校の先生に質問しにくければ、開倫塾などの学習塾や予備校などの先生に質問すること。

(5)このようにしてその日の授業の内容を十分「理解」した上で、次の授業での確認テストの前までに行うべきことは何か。それは、「定着のための 3 大練習」でその日の授業内容をスミからスミまで正確に身につけてしまうことです。

「確認テスト」の内容は、「○○とは何ですか」、「～を何といいますか」など言葉の意味(定義)に関する問題や「次の計算をなさい」などの計算問題、「別の言い方にするとどうなりますか」などの書き換え問題など、出題傾向は大体いつも同じ場合が多いので、基本的なことを「理解」し、その内容を「定着」するだけで十分です。

コツコツ準備さえすれば必ず 100 点満点が取れるのが、授業開始直後に行われる前回の授業内容についての「確認テスト」です。

(6)このような形で、学校で先生が毎回の授業ごとに授業内容についての「確認テスト」を行って下さるのには理由があります。それは、今私が御説明したような勉強を次の授業までにしていたほうが、授業内容をより深く「理解」し、「理解」した内容を「定着」することになるからです。前回の授業をよく「理解」し、その内容を「定着」していれば、次の授業の内容が「理解」できる可能性がとて大くなるからです。

《学校の単元テストや定期テストで100点を取るには》

Q:「学校の単元テスト」や「学校の定期テスト」でよい点数を取るにはどうしたらよいのですか。

A:(1)「単元テスト」というのは、学校の教科書の「章」が終了することに行われるテストであることが多いので、そのような意味での「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数を取る方法をお話します。英語など語学の場合は、「課」が終了することに行われるテストと考えて下さいね。

(2)この「単元テスト」の勉強の仕方は、試験範囲が予め示されて行われる学校の「定期テスト」の勉強の仕方とかなり重なりますので、一緒に説明をします。

(3)「単元テスト」でよい点数を取る方法は、「学習の 3 段階理論」を活用して勉強すればあまり難しくありません。今までのお話と同じようなものになりますが、我慢して一語一語ゆっくり読んで下さいね。

(4)「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数、具体的には「100 点満点を取る」にはコツがあります。これは、小学校や中学校だけではなく高校でも、また、皆様のほぼ全員が高校卒業後に進学なさる「大学」や「短期大学」「専門学校」でも「単元テスト」や「定期テスト」がありますので、そのときにも役に立ちます。国家試験や資格試験でも役に立ちますよ。今からそれをお話します。しっかり読んで参考にして下さいね。

(5)「単元テスト」や「定期テスト」は、出題される教材と出題の範囲が明確に決まっています。この教科書やこの副教材、この問題集の「○○ページから ○○ページ」までと予め明確に示されるのが、「単元テスト」や「定期テスト」の特色です。

(6)応用問題として決まったもの以外から出題される場合もありますが、出題者・作問者である先生方も、予め示された教材や範囲を十分に身につけていれば解答できるものを問題として作問し出題することがプロの教師と考えていますので、「出題される教材」と「授業で配付されたプリント」「授業中のノート」を正確に「理解」し、「定着」させておけばよいと考えます。

(7)今、「授業で配付されたプリント」と「授業中のノート」の大切さをお示しました。「単元テスト」や「定期テスト」には、印刷された「教科書」や「副教材」「問題集」だけでなく、「授業中に先生が使用したプリント」と授業中に先生が説明したり教えて下さった内容をメモしてある「ノート」からも出題されるからです。

《授業で配付されたプリントも大事》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」対策として、先生が授業中に配付して下さった「プリント」教材も大事なのですね。

A：(1)その通りです。ですから、「授業中に先生が配付し、授業で使ったプリント」は必ず保存しておくことが大事です。普通、「プリント」には書き込み用の空いているスペースがあり、授業中に空いているスペースに必要なことを書き込ませながら授業を進める場合が多いようです。ですから、プリントに書き込みながら授業を進める授業の場合には、必要なことはどんどん書き込みましょう。

(2)もし、授業中に書き込むことができなかった場合は、授業終了直後に必ず自分の力で必要なことを書き込んでおくことが大事です。どうしても何を書き込んでよいかわからないときには、友人によくお願いして、プリントの空欄を書き写させてもらいましょう。友人にお願いすることが難しければ、学校の先生に質問して教えてもらうこと。学校の先生に教えてもらうことが難しければ、開倫塾の先生に質問して下さいね。

(3)なぜこんなにまでして授業で使ったプリントの空欄をなくしておくことが大切かというと、プリントを授業中に使用する先生は、「単元テスト」や「定期テスト」にプリントから出題する場合がありますからです。

(4)プリントは 1 枚も紛失することなく、配付された順番通りにきちんとファイルして、保存しておくことも大切です。大切なものは絶対になくさないのも大切な能力です。

《授業中に取ったノートも大事》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」対策として、授業中に取ったノートの内容も大切なのですね。

A：(1)はい。その通りです。授業中に取ったノートも「単元テスト」や「定期テスト」のときに驚くほど役に立ちます。

(2)ノートの取り方についてはいろいろな考え方があるでしょうが、私は、大切な学校での授業なので、授業中は先生のお話になったことはすべてノートに書きとどめることが、後々先生の授業を振り返るときにとっても役に立つと信じて疑いません。

(3)学校の先生と呼ばれる方から教えていただくときはもちろんのこと、人様から自分の知らないものごとを教えていただくときには、その方のお許しをいただかずとメモを、ノートを取り続けると、後でその先生や教えて下さった方を思い出しながら振り返るときにとっても役に立つ。これが私の実感です。手が痛くなるまでメモを取り続ける、ノートを取り続けることは、私にとってとても大切なことに思われます。

(4)小学校よりは中学校、高校よりは大学や短期大学、専門学校、大学や短期大学、専門学校よりは大学院、学校での勉強や生活よりは社会に出て仕事や社会的な活動、実際の生活をするときのほうが、自分自身の力で必要なことをノートやメモに取る必要性が大きいときが多いと私には思えます。

(5)授業中にノートを取り続けることは、「単元テスト」や「定期テスト」の出題範囲について、学校の先生の授業を振り返り、思い出し、「理解」を深めるにはとても役に立ちます。

(6)ただ大切なのは、ノートを自分が後々勉強しやすいように整理することです。「ノート整理」ですね。この「ノート整理」が上手な人は「学力」が高いといわれるほど、「ノート整理」は大切です。

《ノート整理のコツとは》

Q：ノート整理のコツは何ですか。

A：(1)「定着」のときにもお話ししましたが、教えていただいたときの様子が思い出しやすいように、自分で読みやすいように、後で自分で勉強しやすいように、覚えやすいように、「定着」しやすいように工夫して「整理」することです。

(2)項目分けをしたり、線で囲んだり、マーカーを引いたり、図解したり、後で調べたことを書き込んだり、ページをつけたりと、やることはたくさんあります。

(3)できるだけ見やすい、また、美しいノートを自分自身の手で作り上げ、せっかく作り上げたノートですから、スミからスミまで覚える、身につけることが、「単元テスト」や「定期テスト」でよい点、100点数を取るのに役立ちます。

《単元テストや定期テストで100点を取るための教科書の勉強方法とは》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」で100点を取るために、教科書はどのように勉強したらよいのですか。

A：(1)教科書の出題範囲(○○ページから○○ページまで)に出ていることはスミからスミまで一語残らず、その意味、内容を「理解」した上で、スミからスミまで正確に身につけること、「定着」させることです。

(2)教科書は本文だけでなく、欄外(らんがい)の「注(ちゅう)」や「説明」として「小さな文字」で書いてあることも見逃すことなく、すべてその「意味」や「内容」を「理解」する。

(3)その後「音読練習」と「書き取り練習」を最低でも6回は繰り返して、すべて「正確に身につける」(「定着」させる)こと。6回が大事です。

《問題集の勉強の仕方とは》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」で100点を取るために、「教科書」の中にある「計算や問題」と、学校で使用している「問題集」の「計算や問題」はどのように勉強したらよいですか。

A：(1)「試験範囲」のものは、「全問」すべて自分の力でもう1回ノートに書き直すことが大事です。

(2)できない問題がなぜできないか、その原因を自分で分析する。「いくら考えてもできない問題」か、「うっかりミス(ケアレスミス)でできなかった問題」かに分ける。これを「誤答分析(ごとうぶんせき)」といいます。

(3)いくら考えてもできないのは「理解」不足かもしれないので、もう一度、「教科書」や「参考書」だけでなく、「辞書」まで活用して、「そうか、これはこのようなことだったのか」と「うんなるほど」と「納得できる」まで勉強する。どうしてもわからなければ、学校や開倫塾の先生に質問することが、ここでも大事。

(4)よく「理解」していてもうっかりミス、ケアレスミスした計算や問題は、「うろ覚え」「練習不足」が原因なので、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」でしっかり身につける。

(5)このようにして、教科書に出ているすべての「計算や問題」、学校で使用している問題集の「計算や問題」がすべて「理解」できたら、テスト範囲について前から順に「計算・問題練習」を6回繰り返す。6回が大事です。

(6)これで、「単元テスト」と「定期テスト」でよい点数、100点満点が取れます。

《実技4科の定期テストで100点満点を取るには》

Q：全科目、この方法でよいのですか。

A：(1)もちろんです。

- (2)音楽や技術・家庭、保健体育、美術などは、「単元テスト」や「定期テスト」のテスト範囲の内容について実際に演奏したり、ものをつくったり、身体を動かしたり、創作をすることも大切と考えます。
- (3)楽器が演奏できる人は、テスト範囲の曲を音楽の教科書を見ながら自分で少しでも演奏してみましょう。教科書の楽譜を見て楽器が演奏できたり、歌を歌えることは素晴らしいことです。
- (4)技術・家庭の教科書に出てくるものもどんどんつくってみましょう。生活する上で役に立ちますよ。
- (5)保健体育ほど、健康な生活をするのに、また、スポーツをする上で役立つものはありません。スミからスミまで全部「理解」した上でしっかり身につけましょう。
- (6)美術の教科書に基づく創作活動や鑑賞活動は、人生を豊かに幅広くします。どんどんやってみましょう。
- (7)これらの科目も積極的に取り組み、「理解」→「定着」の上でテスト対策をバッチリすれば、「単元テスト」や「定期テスト」で全科目ともよい点数、100点満点が取れます。頑張ってくださいね。

《学年末テストでよい点数を取るには》

Q：学校の「定期テスト」の最後には、「学年末テスト」があります。「学年末テスト」ではどのようにしてよい点数、できれば100点満点を取ったらよいのですか。

A：(1)「定期テスト」の最後として「学年末テスト」は何のためにあるのか、もっといえば、テストは何のためにあるのか、たまにはじっくりと腰を落ち着けてよく考えてみましょう。

- (2)私は、「学年末テスト」は1年間の勉強を「定着」させるためにあると考えます。
- (3)「学年末テスト」のテスト範囲は、「学年末テスト」の直前の「定期テスト」の後に勉強した範囲に限られず、その学年で4月から今までに勉強した範囲である場合が多いようです。
- (4)何のために1年分の範囲で「学年末テスト」が出題されるかといえば、この「学年末テスト」の準備の勉強を通じて、その学年で勉強したことのすべてを「理解」し、しっかり「定着」、身につけた上で、次の学年に進級するためといえます。
- (5)このように、すべての「テスト」はそれまでの勉強をもう一度よく「理解」し、それを「定着」させるためにあると考えることが「ポジティブ・シンキング」、テストについての積極的な考え方だと思います。
- (6)学校で学ぶ者として、「テスト」は避けられません。「テスト」を受けずに学校生活を送ることはできないのですから、「テスト」から逃げるのではなく、「テスト」を積極的に活用して学力をバッチリ身につけることを私はお勧めします。
- (7)「学年末テスト」に向けてしっかり勉強する。特に、中学2年生、高校2年生は4月からその学校の最終学年となり、受験勉強に突入するのですから、1、2年生の内容は「学年末テスト」までにしっかり「理解」し、「定着」させる。3年生になったら、1、2年生の復習をしなくても済むようにしておくことが大事です。
- (8)1年生、2年生の内容も入学試験に出題されるのですから、それらの内容については入学試験に合格するまでレベルを上げておきましょう。遠慮しないで、1、2年の範囲についても入試問題に挑戦することも大事です。

《「学校の実力テスト」でよい点を取るには》

Q : 「学校の実力テスト」でよい点数を取るにはどうしたらよいですか。

A : (1) 学校の実力の特色は、テスト範囲はや出題される教材が「単元テスト」や「定期テスト」のように特定されていないということです。

(2) 但(ただ)し、特定されていないとはいっても学校で行うテストですから授業で教えていない範囲からは出題されることは少ないでしょうし、学校の教科書や教材、問題集のレベルを超えた難しい内容が出題されることも少ないと思われます。

(3) ですから、「学校の実力テスト」は今までに授業で勉強した範囲から出題され、そのレベルは学校の教科書や教材、問題集のレベルと考えてよいと思います。

(4) そう考えれば、「学校の実力テスト」の実施の日までにやることは自ずと決まってきますね。
その学校に入学してから今までに勉強してきたことを試験範囲と考えればわかりやすいと思います。今1年生なら4月から今までに勉強してきたところ、2年生なら1年生の4月から今までに勉強してきたところ、3年生なら1年生の4月から今までに勉強してきたところを実力テストの範囲と考える。

(5) 実力テストのレベルは学校の教科書や教材、問題集のレベルなので、用いるべきは、学校の教科書、教材、問題集と授業中のノートとする。

(6) 以上をテスト範囲、用いる教材として、出題科目についてテストの日まで1～2か月かけて最大の準備をして下さい。必ずよい点数が取れます。

(7) 「確認テスト」や「単元テスト」、「定期テスト」の内容ばかりなので、その復習だと思ってどんどん勉強してみましょう。

(8) 「確認テスト」で勉強し足りなかったところを「単元テスト」の勉強で補い完全にする。
「単元テスト」で勉強し足りなかったところを「定期テスト」の勉強で補い完全にする。
「定期テスト」で勉強し足りなかったところを「学年末テスト」の勉強で補い完全にする。
「学年末テスト」で勉強し足りなかったところを、この「実力テスト」の勉強で補い完全にする。

この先のお話をするならば、「学年末テスト」で勉強し足りなかったところを、「受験学年の模擬テスト」で補い完全にする。

そして、理想をいえば、「模擬テスト」で足りなかった勉強を、本番の「入学試験」までに補い完全にして入試に臨む。

「入学試験」までに足りなかった勉強を、「希望校の入学式」までに補い完全にしてから入学する。

(9) 学校の「実力テスト」を活用して、このような流れ(Stream ストリーム)を1日も早くつくり出すことが大切かと思います。

《「学校の実力テスト」が終わったあとは》

Q : 「学校の実力テスト」が終わったあとは、どのようにしたらよいのでしょうか。

A :

Q : 「学校の実力テスト」の準備として「予想問題」のようなものをやったほうがよいのでしょうか。

A : (1) 学校の教科書の単元の最後や教科書の最後に出ている単元、その学年のまとめ問題はお勧めです。学校の問題集の各単元の最後のまとめ問題やその学年のまとめ問題もお勧めです。

(2) 開倫塾のテキストや問題集の各単元の最後のまとめ問題やその学年のまとめ問題もお勧めで

す。

(3)本屋さんで売っている各学年や単元のまとめ教材、まとめ問題集も役に立ちます。

(4)本格的な受験勉強に入る前は、この「実力テスト」を活用して、今の学年までの勉強を1科目でも多く完成の域にまで近づけておくことを私は強くお勧めします。

Q：模擬試験は何のためにあるのですか。模擬試験は入学試験に役に立つのですか。

A：(1)入学試験までに1回も予行練習のための模擬試験を受けないで本番の入学試験をいきなり受けるよりは、入試の1年くらい前から計画的に模擬試験を受けることを私はお勧めします。

(2)模擬試験での勉強を通して入学試験までに合格できるだけの実力を備えることがよいと私は考えます。

(3)あらゆるテストや試験には教育的な意味があります。この入学試験の準備のための「模擬試験」にも意味がありますので、まずはそれをよく「理解」すること、よく「理解」した上で「模擬試験」を積極的に御活用なさることが大事と考えます。

(4)本番の入学試験の前に、受験学年になると皆が受験する偏差値の出る模擬試験の活用の仕方をお話いたします。

(5)模擬試験では試験が終了する事ことに何のために偏差値が出されるかといえ、進学を希望する学校の合格可能性を知るためといえます。その学校に合格できるだけの偏差値がいつも取れていれば合格可能性は高く、そうでなければ低いといえます。だから、受験生は、自分が進学を希望する学校に合格できるだけの偏差値を取ることを目指して勉強に励むのです。

(6)模擬試験の偏差値は高ければ高いほど入学試験に合格できる学校は多いといえます。進学する学校を選ぶときの選択肢(せんたくし)が増えるといえます。学校選びも人生の選択肢の1つだと考えれば、人生の選択肢を増やしたければ模擬試験でよい偏差値を取ることは欠かせないともいえます。

(7)模擬試験は何のためにあるかと問われれば、入学試験までに自分の希望する学校に合格するだけの学力をしっかりと身につけるためにあると私は考えます。偏差値は初めは余りよくなくても、模擬試験で得意科目や得意分野、不得意科目や不得意分野を自分自身で良く知り、つまり「自覚」をして、得意なところはどんどん伸ばし、不得意なところは基礎からやり直す。受験生としての自覚を持って希望する学校に合格するだけの実力を確保することが大切です。

(8)このような方法で、模擬試験を通じて自分の行きたい学校に合格するだけの実力を備えることは、入学試験の合格に直結しますので、模擬試験と入学試験は大いに関係があるといえます。

Q：模擬試験でよい偏差値を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1)その模擬試験のその時期に過去に出題された問題、いわゆる「過去問」5年分を実際に解いてみる、じっくり研究をしてみることをお勧めします。

それも、1回だけではなく、同じ「過去問」を5回～6回やり直してみることをお勧めします。この方法が最も効果的です。

(2)模擬試験は年間スケジュールが予め決まっていますので、1つ1つの模擬試験の日程を入手し、いつあるのかをまずは「理解」。日程表をコンビニ等で縮小コピーして「手帳」や「ノート」、机の前にはりつけること。その日程表をいつも見ながら作戦を立てることが大切です。

(3)できれば、1つの模試が終了したその直後、その日から次の模試の準備をすることをお勧めします。

Q：模擬試験が終わった日の過ごし方を教えてください。

A：(1)模試が終わったら、その日のうちに模試の解答集を用いて1問1問正解したかをチェック。

なぜこの問題ができて、その問題ができなかったかを自分の手で確認して下さい。

(2)解答できなかったり、解答はしたが間違えた問題については、なぜその問題に手が付けられなかったのか、解答はしたが間違えたのかの原因を自分の力でよく考える。これを「誤答分析」といいます。

(3)よく考えて、その原因が「理解」不足だったら、教科書や参考書、授業中に取ったノート、辞書などを活用して「うんなるほど」と「理解」できるまで調べる。それでもわからなかったら、学校や開倫塾の先生に質問することが大切です。

(4)「理解」はしていたが細かいところまで正確に覚えていない、正確に書けない、計算や問題練習が不足していたなどの理由で間違えた場合には、「定着のための3大練習」を繰り返す。

(5)ここまで自分で勉強してから、もう一度、その日にやった模擬試験の問題を全部やり直すこと。そして、二度と同じ誤りを繰り返さないまでにする。このように「誤答分析」を活用することが大事です。

Q：模擬試験の「過去問」5年分も同じようにやればよいのですか。

A：(1)その通りです。次の模擬試験までに、まずは「過去問」を1年分行い「誤答分析」をする。

科目別・分野別に「理解」不足、「定着」不足のところを探し、それを補うための勉強を自分でする。

(2)それが終わったら、同じ問題をもう一回やってみる。

(3)次に、もう1年分を同じようにやってみる。やり終えたら、その問題をもう一回やってみる。

(4)これを繰り返すと、あっという間に5～6年分を5～6回やり終えてしまいます。

(5)最後は、問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るようになります。ここまでくれば、誰でも偏差値は50、60を当然突破し、70以上にもなります。

(6)受験勉強に頭がよい、よくないは全く関係ありません。要は、やったか、やらなかったかだけです。時間とエネルギーはかかりますが、また、他にもやり方はあるでしょうが、高い偏差値が取りたかったら、例えばこのような方法でやればよい。ただ、それだけです。

(7)「模擬試験」についてもその時期に出た「問題5～6年分を知り尽くす」こと。「理解」できていないことは基礎から勉強し直し、しっかり「理解」する。よく身についていない、「定着」していないところは、「定着のための3大練習」を徹底的に行いスミからスミまで正確に身につける。そして、同じ過ちを繰り返さないこと。

Q：入学試験で合格点を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1)入学試験で出題された問題(過去問)を少なくとも5～6年分は全部自分でやってみる。こと。

同じ問題を5～6回やり直すこと。

(2)2011年なら今日と明日、1月15・16日に行われる「大学入試センター試験」の場合は、「過去問」15年分以上を「追試問題」を含めすべて同じ問題を各5～6回自分で解くことが最も有効な方法です。

大学入試センター試験対策はその年のセンター試験が終了したらすぐにスタートし、1年間かけて行うことが望ましいと考えます。

(3)どのような入学試験も、入試1年前から一瞬も気を抜くことなく一心不乱に合格に向けて

「理解」→「定着」→「応用」をはかることが大事です。

(4)入学試験で合格点を取る、入学を勝ち取るにはこのようにして学力を身につけることが大切ですが、このほかにもたくさんありますので、別の機会にお伝え致します。お楽しみに。

Q:「応用」には「試験でよい点数を取る」や「合格点を取る」だけではなく、「社会で役立てる」もあるようですね。

A:はい。少し長くなりましたので、またの機会にお話しさせていただきます。

今回はこれでおしまい。長い文章を読んでいただき有り難うございました。

感謝

— 2011 年 1 月 9 日記 —

日本経済新聞、土曜版、日経プラス、ニュースにチャレンジ「教えて先生」2011 年 1 月 8 日分原稿

開倫塾

塾長 林明夫

1. 何年か前にフィンランドのヘルシンキ大学での国際会議に参加。ノキアはじめフィンランドの大手企業 10 社の社員の国外勤務率が 50%を越し 60%近くまで上昇しているのには少し驚きました。フィンランドでは、ノキアはじめ大手企業は国外勤務はあたり前となっているようです。
2. ここ数年、毎年、韓国のサムソン本社を訪問し、サムソンの経営について調査と研究をしています。サムソン本社での採用は世界中からの採用、つまり、世界採用が原則のようです。サムソン本社の公用語はもちろん英語。サムソン本社で採用された社員は、地元の韓国人も含め世界中で勤務するのが原則のようです。
3. インドにある世界有数のコンピュータ・ソフト会社のインフォシスは、本社のバンガロールから 90 マイル離れたマイソールという街に、2005 年に、インフォシス・グローバル研修センターを設立。インド国内だけでなく、米国、欧州、中国をはじめとするインフォシスが事業を展開する全地域の大学を卒業した新入社員、13000 名を 14 週間研修後、全世界の勤務地で仕事をスタートさせています。もちろん、社内の共通語は英語です。
4. このように、ビジネスの世界では、自分の出身国以外で働き、また、英語を共通語として仕事をするのは普通です。
5. これからの国際化された世界で働く人々には、「多様な集団で交流する能力」が求められます。その能力は、多様な集団で「他人といい関係をつくる能力」、「協力し、チームで働く能力」、「課題を処理し、解決する能力」を内容とします。
育った環境、宗教や価値観、言語が自分と異なる人々に対して思いやり、寛容さをもつことも大切です。

6 . パリで開かれた OECD の会議に私が参加した時のことです。何人かの人々がフランス語で話していたグループに私も参加したところ、あいさつ程度の簡単なフランス語しか私が話せないとわかった瞬間、そのグループ全体がパッと英語に切り替わりました。この思いやりには感激したものです。

7 . これからの世界では、共通語である英語によるコミュニケーション能力が求められますので、英語はしっかり身につけましょう。同時に、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、韓国語、アラビア語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、ヒンズー語など英語以外の言語でもコミュニケーションができるようしっかり、正確に身につけましょうね。

8 . (1) 新聞の海外欄を、地図帳をそばに置いて地名を確かめながら、毎日、新聞を読む習慣を身につけると外国が身近に感じられますよ。外国から来た方や、外国に行ったことのある人からその国の様子を聞くこともとてもよい勉強になります。

(2) どの国にも素晴らしい文化があります。図書館や美術館、博物館に積極的に出掛けて、世界の文化を知ることをお勧めします。

(3) 最後に一言。これから、中国やインドをはじめ世界の新興国から大量の高校卒業生や大学卒業生が出てきて、自分自身の生活の向上や企業や国を発展させようとするすごい勢いで働き始めます。日本企業の競争相手は国内の企業だけではないのと同じように、皆様の競争相手は日本人だけではなく世界中の人々となります。これから始まるのは、中国やインドなどから出る大量の大学卒業生をはじめとする世界的な優秀な人材の獲得競争です。日本がこれにどう対処するかが日本の運命を決めます。

- 2011 年 1 月 6 日林明夫記 -

「就職氷河期」を生き抜く
—求められる社会人になるために—

開倫塾
塾長 林 明夫
www.kairin.co.jp

お読みになりやすいように QandA の形でレジュメをつくりましたので、御活用下さい。

Q：「現代は就職氷河期」と考えますか。

A：(林明夫。以下略)私はそうは思いません。規模の大小に関係なくどこの企業の経営者も、人材が足りない、人材が足りないと嘆いています。

Q：どのような「人材」が足りないというのですか。企業、もっと言えば経営者が求める人材とは何ですか。経営者はどのような視点から人材を選抜するのですか。

A：「規律ある人材」です。企業の経営者が望むのは、企業の永続性のみです。企業の永続性を支える「規律ある人材」を、規模の大小に関係なくすべての企業の経営者が求めています。

Q：「規律ある人材」とは何ですか。

A：例えば、コリンズ氏は近著「ビジョナリー・カンパニー」第 3 巻で、「規律ある人材」とは何かを次の 5 点から考えています。

1. 「規律ある人材」は、企業の基本的価値観をよく「理解」し、よく「定着」させている、つまり身につけ、それを「応用」つまり日々の仕事の中で実行している。
2. (1) 「規律ある人材」は、厳しく管理する必要はない。
(2) その人の「動機付け」や「管理」に大量の時間を使う必要はない。
(3) 良い意味で、神経質だし、動機と規律を自分で身につけていて、自分の能力を最大限に発揮しなければ気がすまない。
(4) それが DNA の一部になっている。
3. (1) 「規律ある人材」は、「肩書き」をもっているのではなく、「責任」を負っていることを理解している。
(2) 自分の職務としてあげられている項目と、自分の責任との違いを知っている。
(3) 「私が最終責任を負っているのは…」という形で自己紹介ができる。
4. (1) 「規律ある人材」は、企業とその仕事に情熱をもっている。
(2) 情熱がなければ何も達成できず。
(3) 「規律ある人材」は驚くほど強い情熱をもっている。
5. (1) 「規律ある人材」は、「窓と鏡」の成熟した思考様式をもっている。
(2) 成功を収めたときは、窓の外を見て、成功をもたらした要因を自分以外のところに見つけ

出す。成功に寄与した人たちに光をあて、自分の功績だとほとんど考えない。

(3)だが、事態が悪くなったときは、後退や失敗の責任が、状況や他人にあったとは主張しない。鏡を見て、「自分の責任だ」という。

* 以上、ジェームズ・C・コリンズ著、山岡洋一訳「ビジョナリー・カンパニー ―衰退の五段階―」日経 PB 社 2010 年 7 月 26 日刊 P253 ~ 255 より引用。

Q：そのような「規律ある人材」を求める企業経営者は、自らが経営する企業をどのようにしたいと考えているのですか。

A：企業経営者の最終的な願いは唯一つ、「永続する企業」にして次の世代にバトンタッチをしたい、「企業の永続にするためのしくみづくり」ただそれだけです。そのためにはどうしたらよいのか。例えばビジョナリー・カンパニーの中で著者コリンズ氏は「良好な企業から偉大な企業への飛躍の法則」として次の 4 点を掲げて永続する企業の条件を述べています。。

1．規律ある人材

(1)リーダーシップ

指導者(あるべき企業経営者)は、野心を何よりも組織と活動に向けており、自分自身には向けていない。

そして、この野心を達成するために必要なことは何でも行うという強烈な意思をもっている。個人としての謙虚さと、職業人としての意思の強さという矛盾した性格をあわせもつ。

(2)最初に人を選び、その後に目標を選ぶ。

偉大な組織を築いた指導者は、適切な人をバスに寄せ、不適切な人をバスから降ろし、適切な人を主要な席につけ、その後にバスの行き先を決めている。

「だれを選ぶか」をまず決めて、その後に「何をすべきか」を決める。

2．規律ある考え

(1)厳しい現実を直視する。

どれほどの困難にぶつかっても、最後にはかならず勝つという確信を失わない。

それと同時に、それがどんなものであれ、自分がおかれている現実のなかで最も厳しい事実を直視する規律をもつ。

(2)単純で一貫した概念。

偉大な組織は「単純で一貫した概念」に一致する優れた決定をいくつも下していくことで築かれる

その 3 つの内容

(ア)世界一になれる部分

(イ)情熱をもって取り組めるもの

(ウ)最高の経済的原動力、又は、最高の資源の原動力になるもの

3．規律ある行動

(1)規律の文化

規律ある考えができ、規律ある行動をとる規律ある人材が各人の責任の範囲内で自由に行動することが、偉大な組織を築く規律ある文化のカギである。

規律ある文化では、人々は仕事を与えられるのではなく、責任を与えられる。

(2) 弾み車

偉大な組織を築くとき、決定的な行動や壮大な計画、画期的なイノベーション、たった一つの大きな幸運、魔法の瞬間といったものがあるわけではない。

偉大な組織への飛躍は、巨大で重い「弾(はず)み車」をひとつの方向に押し続け、回転数を増やして勢いをつけていき、やがて突破の段階に入ってもさらに押し続けるようなものだ。

4. 偉大さが永続する組織をつくる

(1) 時を告げるのではなく、「時計をつくる」

ほんとうに偉大な組織は、何世代にもわたる指導者のもとで繁栄を続けていくのであり、ひとりの偉大な指導者、ひとつの偉大なアイデアやプログラムを中心に作られる組織とはまったく違う。

偉大な組織の指導者は「進歩を促す仕組み」を作っており、カリスマ的な個性に頼って物事を進めようとはしない。

逆に、カリスマとは正反対の性格である場合が多い。

(2) 基本理念を維持し、進歩を促す

永続する偉大な組織は基本的な部分で二面性をもっている。

一方では、「時代を超える基本的価値観と基本的な存在理由」をもち、この基本理念は長期にわたって変わらない。

他方では、「変化と進歩」を常に求めており、「創造性を発揮したいという欲求」がときに「組織の運命を賭(か)けた大胆な目標」の形であらわれてくる。

偉大な組織は、「基本的価値観」(組織にとっての不変の主義)と、「戦略や慣行」(世界の変化に適應して絶えず変えていくもの)をはっきりと区別していく。

* 以上、コリンズ著 2010 年刊、前掲書 280 ~ 286 ページより引用

Q：林さんは何が言いたいのですか。

A：(1) 言いたいことは唯一つです。これから皆様が就職しようという企業は、今、御紹介したような意味での「永続する企業」「ビジョナリー・カンパニー」でなければ生き残ることはないし、そこで求められのは「規律ある人材」のみであるということです。

(2) 求められるのは「規律ある人材」が「規律ある考え」に基づき「規律ある行動」をして、「永続する企業」をつくり上げるということのみです。

(3) このことをはっきりと認識した上で、就職活動に臨んで頂ければと希望します。

Q：外国勤務は求められますか。

A：(1) TPP に限らず、経済連携協定が様々な地域や国々との間で今後どんどん締結されますので、たとえ日本企業に勤務しても、日本だけに勤務して仕事が済むかと言えば、そうでない企業がどんどん増えると思います。

(2) 日本国内だけにとどまる企業、つまり社員の外国勤務率の低い企業は永続性が低く、生き残れないと考えられます。

(3) 永続する企業は国際化がどんどん進み、その企業を支える「規律ある人材」は外国勤務が当然という時代に入ったと言えます。

Q：英語は必要ですか。

A：(1)英語は世界の共通語ですから、国際化した企業においては、英語によるコミュニケーション能力は必ず求められます。

(2)英語の学習環境は、大学が最も整っています。大学生のうちにできる限り身につけて下さい。私なら、卒業単位にならなくても、毎日英語関係の授業を卒業の前の日まで受けます。授業のない時間や授業のない日は、大学の図書館に居続けて英語の勉強をします。

(3)大学生にとって英字新聞は必読です。

まずは、一面の記事を辞書を引きながらでも毎日、全部読みましょう。

辞書で調べた語句はノートに記録し、毎日すべて暗記(スラスラ読めるようにすること、書けるようにすること)しましょう。

記事をコピーし、1つずつ切り抜きノートに貼り、そこに調べた意味をメモするのも1つの方法です。

英文読売(Daily Yomiuri)や英文の朝日新聞がついている International Herald Tribune がお勧めです。

(4)高校の文法の教科書を繰り返し音読し、文法的に正しい英語を身につけよう。

(5)TOEIC にも挑戦。まずは 600 点突破を目指しましょう。

*「英検準 2 級」は最低ラインです。2 級、準 1 級にも挑戦を。

Q：採用試験に「新聞」は役に立ちますか。

A：(1)「新聞を一面から毎日 1 時間以上読まずして採用試験合格はない」と私は考えます。

(2)家で購読している新聞は、毎日読んで下さい。家で購読していない新聞は、大学の図書館で数紙を毎日読んで下さい。

(3)自分の希望する職種に関する記事は、「切り抜き」や「コピー」をして、ファイルし続けること。繰り返しそのファイルを見直すこと。

(4)なぜそのようなことが新聞で取り上げられるのか、自分はどのように考えるのかが述べられるように、記事をノートにまとめ、何回も何十回も読み返して自分のものにして下さい。

(5)英字新聞の読み込みとスクラップも。

Q：採用試験に「大学の勉強」は役に立つのですか。

A：(1)役に立ちます。大学での活動は全部役に立ちます。何から何まで役に立ちます。

(2)「学年末テスト」は大切にして下さい。よく準備をして臨んで下さい。

(3)入学してから今まで大学で学んだことを、この春休みにはすべて勉強し直すことをお勧めします。

(4)「教科書」、「プリント」、「資料集」、「ノート」などをもう一回授業を思い出しながらゆっくりと読み直すと、「理解」が深まります。一度「理解」したら、繰り返し読み、大切なことは何も見ないでスラスラ言えるまでに「音読練習」をする。大切な語句は何も見ないで書けるようになるまで「書き取り練習」をすることが大切です。

(5)大学で勉強したことが「何も見ないでスラスラ言えるようになる」「正確に書けるようになる」ことは、就職に有利です。

(6)新年度の履修科目について「テキスト」を予習することも大切です。「テキスト」を辞書や参考書などを用いて「予習」し、わからないところを明確にしてから授業に臨むこと。

Q：作文、論文式の試験はどうしたらよいのですか。

A：(1) 1 つのテーマについて、自分はこのように考えるとしっかりとした考えを述べるのが大切です。

(2) 例えば、多くの企業では 1 つの課題の解決について次のように考えます。

「観察」...何が問題か。

「問題の発見」

「分析」...何が本当の原因か。

「原因の推定」

「判断」... { とりあえずどうしたらよいのか。
どのようにしくみを変えたらよいのか。

「応急措置」

「制度変更」(システム改革)

そのために最良の実践例を探し出し、素直な心で学び続ける...ベストプラクティスのベンチマーキング

できるだけ簡単な形にして導入...「トレード・オフ」

標準化...「マニュアル」づくり

修正

P(Plan、計画)→D(Do、実行)→C(Check、評価)→A(Action、修正)をまわし続ける

(3) 表現方法や文字は、何百人もの答案を採点する試験官の立場で考える。

「です、ます調」か、「である調」に統一。

文字は楷書体で読み易く書く。

マンガ文字やくせのある字の人は「ペン習字練習帳」を購入し、美しい文字が書けるようになるまで何回も何回も練習をする。

「数字」も美しく書けるようになるまで練習をする。

「英語」(アルファベット)は「ペンマンシップ」でブロック体、筆記体が美しく書けるようになるまで練習を。

* この就職試験で文字を美しく書けるようにする。

Q：「エントリーシート」の書き方、「SPI」の試験の対応方法は

A：(1) エントリーシートは丁寧な言葉遣いで書く。

はじめから入力しないで、まずは「手書き」をして、よく校正してから一気に入力する方がよい表現になり、また、時間も節約できる。内容が大切。

「ブラインド・タッチ」の練習も、この際してしまうのも一手。

(2) SPI は、一番易しい問題集をジャンル別に 1 冊買い求め、5 ~ 6 回終了させてから少しずつレベルを上げる。

なぜそのような解答になるのかよくわからない人は基礎力不足、「理解」不足なのだから、基本から勉強し直す。そこで役に立つのが、SPI の単元別の解説本。必ず 5 ~ 6 回読む。

SPI の問題集は 5 ~ 6 回必ずやる。問題を見た瞬間に正解が出るまでにする。それまで別の問題集に移らない。

(3) 「練習、練習、また練習」あるのみ。

「練習は不可能を可能にする」

Q：面接試験のポイントは何ですか。

A：(1) 服装第一

下着が見える服装は避ける。透けて見えるものもダメ。

髪型、髪の色にも注意。

(2) あいさつ第一

元気なあいさつ。

声が小さければ、話は相手に伝わらない。

モゴモゴ口ごもっては、話は相手に伝わらない。

「発声」練習を

「お辞儀の仕方」の練習を。

(3) 笑顔を

ニコツとしていて感じがよい方がよい。

「スマイル・トレーニング」を。

(4) 消極的なことは口にしない。

(5) 自分の好きな言葉をいくつか用意しておく

「自分の未来は自分で切り開く」

「自己責任」「自助努力」

「あきらめたらおしまい」

「一生勉強、一生青春」

「教育ある人とは、死ぬ直前まで勉強し続ける人」

Q：読書は就職に役立つのですか。

A：(1) 読書をしない人は大学卒業者とは考えないのが企業経営者。

(2) 求められるのは、読書による思慮深さ、自分を振り返る力を身につけること。

(3) 中学校や高校、大学の教科書や授業で紹介されたような本をしっかりと読み込むこと。

(4) 本を読んで「わからない語句」に出会ったら、必ず辞書を引き続ける。調べたものは「語句ノート」にメモ。いつも「語句ノート」を1ページから読み直し、語彙を増やす。「書き取り練習」も。

(5) 地名は地図帳で確かめる。地名はどんどん覚える。書けるまでにする。

(6) 新聞を含めた読書量が「説明する能力」を育てる。→求められるのは、自分の仕事について企業を代表して「説明する能力」をもつ人材。「説明責任」を果たせる人材。

Q：就職した後も勉強は必要ですか。

A：(1) もちろん必要です。

(2) 1つの仕事について学ばなければならないことは、文字通り山ほどあります。「学ぶ」とは「うんなるほど」と「理解」して、「理解」したことをすべて身につけることを言います。

(3) 本当の勉強は就職してからと言えます。

(4) 仕事をしている間は、毎日が勉強、勉強、また勉強。これが実情。

(5) 他人から教えられる場合が多いので「メモ」は大事。

人の話を一語残らずメモし続けるのは大事な能力。

後で「メモ」を「整理」し、しっかり身につけるのも大切な能力。

「仕事はメモで身につける」

(6) 文字を読んで仕事の勉強をすることも多い。辞書と資料集はいつも身近におき、たえず引きまくること。

(7) 中学校、高校、大学の教科書、参考書、資料集、ノートも仕事に役立つ。

* 絶対に処分しないこと。

(8) 一番大切なのは、「勉強の仕方」、「学び方を身につける」能力。

どのように「理解」するのか。

「理解」したことをどのように身につける(「定着」する)のか。

「理解」し、「定着」したことをどのように用いる(「応用」する)のか。

* 大学の勉強を通して、自分なりに「学び方」を身につけてほしい。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 励まし合う仲間をもつこと。

(2) 更に勉強を深めるために大学院進学、専門学校進学、他大学への再入学や研究生や科目等履修生になることも一手。

(3) 健康第一で頑張りましょう。

以上

御質問があったら遠慮なくどうぞ

— 2011 年 1 月 10 日記 —

塾教育とは何か

- 鬼林会で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：鬼林(きりん)会で講演したそうですね。鬼林会とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)アークデザイン代表の林達夫さんが主宰する勉強会で、全国各地にあるようです。林達夫さんを慕う全国の同志が日本各地で集っているようです。

私が「一生勉強、一生青春」というテーマで講演をさせて頂いたのは2010年12月10日、東京の丸の内北口にある日本工業倶楽部が会場の鬼林会でした。

林達夫さんは、「リントツ」の愛称で、知る人ぞ知る講演の名手。全国各地の青年会議所(JC)をはじめ、学校やPTA、企業やNPOなどから講演の依頼が殺到。講演の回数は、2010年12月末で1472回になったそうです。

Q：リントツさんは、なぜそのように人気が高いのですか。

A：79歳までの企業人としての人生経験や、御自身の息子さんお二人を慶應義塾大学や高校部のラグビー部監督にまで育てられたラグー(ラグビーマン)としての経験を踏まえ、人間としてなすべきこと、しない方がよいことを実にわかりやすく、具体的にお話して下さるからだと思います。

私も何回か講演をお聞きしたことがありますが、イングリッシュ・ジェントルマンの心得、真髓をうかがっているような気がしました。

Q：どのようなお話をなさるのですか。

A：講演の冒頭で「無法松の一生」をCDやカラオケの伴奏で熱唱。義理人情とは何かをやさしく解説。

人間として大切なことは、一度、志(こころざし)をとともにした人との友情や約束は、一生大切にしなければならないことを力説されます。

Q：インドのことわざに、「目には遠いが、心は近い」というのがありますね。

A：その通りです。「持続する志」を大切に。「志」をとともにした人、友人との関係の保ち方を具体的に教えてくれるのがリントツさんです。

自分がされていやな思いをしたことは、他人にしないこと。どうやったら他人が自分と同じようないやな思いをしなくても済むかだけでなく、もっと積極的に、どうしたらその人のためになるか、その人に喜んでもらえるか、楽しんでもらえるかを考え、どんどん行動に移すこと。

リントツさんのこのお話を聞いていて、アダム・スミス名著「道徳感情論」(岩波文庫)を読んでいるような気がいたしました。

Q：家庭教育についてのリントツさんの考えは何ですか。

A：一番大切なのは、親の行動。子どもを躾(しつけ)たかったら、まず親が見本を示す。靴は手で揃

(そろ)える。食事は全員揃ってから食べる。誰かにごちそうになったら、手を前にそえて「ごちそうさまでした」とお礼を言い、深々と頭を下げる。お世話になった人には、ペンで礼状を書く。大切な方には誕生日のプレゼントを自宅に届ける。

人の話を聞くとときには、必ずメモ、ノートを取る。メモした内容は自分のことばにして、こんなよいお話を聞いたと他の人にも教えてあげる。電車やバスに乗ったら元気な若者は必ず席を譲る。できるだけ座らない。等々……。

Q：リントツさんの素晴らしさは他にもありますか。

A：オシャレリントツと御自身でもおっしゃるほどオシャレ。いつも笑みを絶やさない。心臓に大きな病気があるにも関わらず、少しもそれを感じさせないことです。

Q：学習塾や予備校、私立学校の経営者の皆様にお考え頂きたいことはありますか。

A：リントツさんは 79 歳、しかも体に大きな障害をかかえながら、これからの世の中を支える人々のために、自分の人生を振り返りながら人間としてよいこと、よくないことを伝え続け、規範教育、駢教育を行っています。また、鬼林会という志を同じくする仲間の集いを全国につくって、旧交を温め、励まし合っておられます。「励まし合う仲間づくり」も素晴らしい。

学習塾や予備校、私立学校の経営者、経営幹部の方々に私が申し上げるのは僭越なことは十分承知の上でお願いしたいのは、御自分の周りの児童、生徒、学生、保護者、地域の皆様、ビジネスパートナー、教職員に、皆様がお気付きになられたことをもっと、リントツさんのように、もっともっと積極的にお伝え頂きたいということです。

気が付いていることがあるのに、何も伝えないのでは、世の中は少しもよくはなりません。誰に遠慮することなく、自分でこれが一番よいと思う伝え方、スタイルを、リントツさんを参考にお考えになり、その伝え方を洗練させていく。

リントツさんは、講演会場に入っていくときや退場するときの手を上げる角度が、故田中角栄氏が一番よいと気付き、その角度を調べるために上越新幹線に乗り、新潟にある角栄氏の銅像を見に行ったそうです。話し方の研究のために落語のテープをスリ切れるほど聞き、また、発声をよくするために小唄(こうた)も稽古(けいこ)しているそうです。

このような学び続ける謙虚な態度も、リントツさんから学びたく思います。

Q：最後に一言どうぞ。

A：リントツさんについては、「林達夫 リントツ」でインターネットを是非一度検索を。

今月も読めば必ずためになる本を御紹介させていただきます。松永澄夫先生編、叢書「哲学への誘(いざな)い—新しい形を求めて」 ～ 、東信堂、2010 年 10 月 10 日刊です。東京大学哲学科をリードされた松永先生が、渾身(こんしん)の精力を傾けてまとめられた入門書。どこからでも、また、どんな状況でも読むことができる叢書。是非、御一読を。

来月は、冬のロシアからの御報告です。お楽しみに。

- 2011 年 1 月 24 日記す -

持続可能な福祉社会をめざして

開倫塾

塾長 林明夫

消費税の増税や学校の先生を含む公務員の削減など痛みを伴う改革の前に、我々が意識を変えたり、よく考えればできることはないのか。

長期間の胃瘻(いろう)やチューブづけ医療を避け、患者や家族が自然死を選択することは、人間の尊厳に反しないのではないのか。

認知症にならない、寝たきりにならないために、本人も今以上にがんばる、家族や医療・介護の専門家も今以上にサポートすることはできないものか。

自分の力での排泄を助けるために、行政はトイレの改造費用の助成や所得税控除ができないものか。

アメリカやヨーロッパでは、高齢者の大学やコミュニティ・カレッジでの学習が大流行している。大学で学ぶ高齢者は、皆、元気で明るい。高齢者の大学での学習に奨励金を出したらどうか。

ショッピングセンターはじめ商業施設がどんどん空き始めた。都市再生として、商店街やショッピングセンターなどの中に、介護施設やフィットネスクラブ、コミュニティ・カレッジなどを組み合わせることで、高齢者の生き方を変えることはできないものか。

85 歳過ぎまで働くことのできる職場を提供することで地域の労働参加率を向上させることを、超高齢化社会という社会的課題解決のための具体的行動、CSR としてすべての企業は目指すべきではないのか。

ロシアでは、都市近郊の別荘付農地、ダーチャがさかんだ。ダーチャのおかげで、経済危機の時も食べ物に困らなかった人が多いという。土に親しむ人も皆元気だ。また、いざという時のためにも、農業県の本県は栃木版ダーチャを本格的に研究し、50 歳以上の全県民に奨励したらどうか。TPP 対策にもなる。

私も含めて団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年から 10 年間余りが、国や自治体の財政危機のピークと聞く。社会の負荷にならない生き方を、その時まで 1 つでも多く身につけ実行することが、持続可能な福祉社会実現のために我々団塊の世代に課せられた社会的責任と考える。

- 2011 年 1 月 22 日記 -

「いつまでも若々しく生きる」で街づくりを －「一生勉強、一生青春」－

開倫塾
塾長 林 明夫

1．はじめに

- (1) 足利市活性化のために
- (2) いつまでも若々しく生きる街づくりを
- (3) キー・ワードは「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

2．人口減社会の中で人口増を目指すには

- (1) 「足利学校」のある街、足利ならではの取り組みを。
- (2) 「教え方日本一の街づくり」で「孟母百遷」を。
- (3) 例えば、足利中の学校の英語の先生すべてが「英語の授業を英語」で行えば、人口が増える。
- (4) 働くシングル・マザーに、親切でやさしい足利づくりを。
- (5) あらゆる分野で先生と呼ばれる人に、親切でやさしい街づくりを。
あらゆる分野で先生と呼ばれる人のスキルアップを全面的に支援する街づくりを。
- (6) 特に、教育、研究、医療、福祉、介護の担い手に、最も親切でやさしい街づくりを。
プロフェッショナルとしての自立と能力向上を全面的に支援する街づくりを。
- (7) 足利のもう一つの宝物は「貞観政要(じょうがんせいよう)」。徳川家康が足利学校に命じて改版、つまり印刷させたとされている。唐の繁栄の基礎を築いた太宗の教えを記したリーダーシップの古典中の古典。プロフェッショナルのリーダーシップ教育のメッカとしての地位を足利は築くこと。
- (8) 「学問の街足利」「足利学校のある街足利」を全面に出した街づくりで 20 万都市の創造を。

3．おわりに - 数少ない統一ある刺激は数多い散漫な刺激に優る -

- (1) とりあえず空いている学校の校舎や空いているテナント、遊休施設はすべて、365 日朝 6 時～夜 12 時まで開館の稼働の図書館に。「街中、図書館」で学習都市足利(Learning City Ashikaga)の創出を。
- (2) あきらめたらおしまい。
自分たちの未来は、自分たちで切り開く。
- (3) 一生勉強、一生青春
- いつまでも若々しく生きる街づくりを -

以上

- 2011 年 1 月 23 日記 -

新春トップインタビュー

開倫塾

塾長 林 明夫

- 創塾 30 周年を迎えた開倫塾塾長の林明夫さんに新年の抱負などをうかがいます。

インタビューは、栃木放送の松井里恵さんです。 -

松井：この時間は、開倫塾塾長の林明夫さんにお話をうかがっていきます。よろしくお願いします。

林明夫：よろしくお願いします。

松井：明けましておめでとうございます。新しい年を迎えましたが、今はどのようなご気分ですか。

林：新年なので今年も一所懸命やりたいと思います。よろしくお願いします。

松井：開倫塾は 31 年目を迎えるそうですね。それだけ多くの方に影響を与え、また支えられてきたところもあると思います。昨年は 30 年ということで区切りのよい年でしたので、昨年のこともうかがってみたいと思います。昨年はいかがでしたか。

林：お陰様で、ここまでよく支えていただきました。ありがとうございます。

昨年は、日本中が経済的に非常に大変な年でした。そのような状況の中でも子供たちの成長のために塾に通わせたり学校に送り出したりされたわけですから、お父さんやお母さんは本当に大変であったろうと思います。

松井：塾としてはどうだったのでしょうか。「ハイサービス日本 300 選」という素晴らしい賞がありますが、その賞を昨年受賞されたそうですね。

林：お陰様で、ありがたく思っております。私共を含め、サービス産業は一般的に生産性が低いようです。そこで、当塾はサービス産業として経営の品質を向上させる取り組みをさせていただいています。

今、製造業は円高のために大変な思いをしています。その製造業に就いている方が、仕事を辞めなくてはならない場合などは、サービス産業に移ればよいのですが、サービス産業の生産性があまりにも低いために移れないのです。そこで、受け皿をどのようにつくったらよいかということで経産省が始めたのが、この「ハイサービス日本 300 選」の運動です。

僭越ですが、私共もどうにか生産性を向上させて製造業の方々に来ていただけるような職場にしたいとの思いで、いろいろなことに取り組んでいます。

松井：本当に細かいサービスを徹底してやっという感じがしますね。

林：いえいえ、何もできなくて恥ずかしいです。

教育の質で一番大事なのは、「カリキュラムの質」です。どのような内容をどのように教えるかということです。

二番目は「先生の質」です。当塾では、先生の質を上げるためにいろいろな取り組みをさせていただいています。

三番目は「マネジメントの質」だと思います。

松井：それらのほかにも、これまでさまざまな取り組みをなさってきたと思いますが、学習塾が 30 年間続くというのはすごいことですね。モットーとしているものがしっかりしているからでしょうが、実際に林さんが開倫塾で大切になさっているモットーは何ですか。

林：教育の中心、メインストリームは学校教育で、学習塾は学校教育で足りない部分を補うところであるというのが、私の考えです。

当塾が力を入れて塾生の皆さんにお願いしているのは、授業などで「うんなるほど」と理解した内容を、音読練習、書き取り練習、計算・問題練習の三大練習で身につける、定着させることです。練習は不可能を可能にします。一度「うんなるほど」とよくわかった、理解した内容について読む練習、書く練習、計算・問題練習をしてしっかり身につけるよう指導しています。

松井：根気よく練習することは大切なことですよね。

林：学校では時間がなくてなかなかできませんので、家庭や塾でやっていただくよう塾生の皆さんにお話しています。

それから、勉強の仕方がきちんと身につけている方は成績がよいので、それも身につけていただきたいと思っています。

本をたくさん読む方も成績がよいです。「お金持ちの国の子供は非常に成績がよい。なぜかという、本をよく読むからである」とよく言われますが、「お金持ちでない国の子供でも本をたくさん読む子供は成績がよい」です。ですから、気のついたときからでよいので、読書の習慣を身につけることによって、「思慮深さ」や「自分自身を省みる力」を身につけていただきたいと思います。

松井：このようなちょっとしたコツを教えてもらえると助かりますね。

林：それから大事なのは、図書館の使い方を身につけることです。お金がなくても、図書館に行けばいくらでも勉強できます。ですから、図書館を使う方法をマスターするとよいですね。何でも自分で買う必要はありません。

松井：皆さんがそのような便利なところを知っていれば、よりスムーズに勉強できたり身につけたりできますね。ちょっとしたコツを教えてもらえるのが、塾のよさではないかと感じます。

さて、新しい年を迎えて開倫塾は一体どのような 1 年になるのかと今からわくわくします。どのような 1 年にしたいとお考えですか。

林：これからは、先程お話をさせていただいた、勉強の仕方のスキルを身につけていただく指導、思慮深さを身につけていただくための読書の指導、図書館の利用の仕方の指導、新聞をじっくり読んで考える力、つまり批判的思考能力を育成するための指導、英語の指導、数学の力を高めるための指導などに努めていきたいと考えています。

松井：数学ですか。

林：そうです。日本は理科系の人不足です。インドなどでは大学に進学する人の全員が微分・積分を完全に証明できます。そうでないと大学入試に合格しません。日本ではそのような人は少ないですね。大学の文科系学部に進む人は高校時代に微分・積分までは余り勉強しないからです。ですから、日本でもすべての人が理科系の分野に進めるような可能性を残しておくとうよいと思います。

松井：子供たちよ、特に読書と英語、数学を頑張りましょうということですね。

林：加えて、コンピュータですね。コンピュータの知識を身につけて積極的に使いこなしていただきたいと思います。

それから、自分の好きなことを 1 つ探していただきたいですね。運動もしたほうがよいでしょう。

松井：大忙しになってしまいますね。(笑)

林：学校でやるべきことはすべて世の中に出てから役に立ちますから、ぜひさまざまなことをやってみて下さい。

松井：無駄なことは何もありませんからね。

林：はい、ありません。中でも一番役に立つのはトイレ掃除です。

松井：トイレ掃除ですか。

林：はい。トイレ掃除を含めた掃除です。

松井：今、子供たちが学校で学んでいることには無駄なことが 1 つもないということですので、子供たちには大いに頑張ってもらいましょう。

自信がないなあとと思っている子供たちには、開倫塾でも相談に乗ってくれますよね。

林：開倫塾はもちろん、他塾でも相談に乗ってくれます。また、学校の先生にも相談するとよいですね。

松井：そして、よい 1 年にしていただきたいと思います。最後に、林塾長から改めて新年のご挨拶をお願い致します。

林：開倫塾塾長の林明夫です。去年は本当にお世話になり、ありがとうございました。今年 1 年も、大不況や高齢化社会に負けないように力をつけていきたいと思いますので、どうか一緒に勉強しましょう。

松井：栃木放送にも関わりの深い開倫塾です。毎週土曜日午前 9 時 15 分から開倫塾の番組を放送しています。林塾長が毎週お話されていますので、今年もまたお聴き下さい。

林：もしよろしければ聴いて下さい。

松井：さらにいろいろなお話を下さっていますので、ぜひチェックしていただきたいと思います。

この時間は、開倫塾塾長の林明夫さんにお話をうかがいました。

林：ありがとうございました。

「10年後の国のかたち」

- 経済同友会で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：経済同友会では、「10年後の国のかたち」をとりまとめているようですね。

A：(林明夫：以下省略)はい。東京の丸の内北口の日本工業倶楽部にある公益社団法人、経済同友会(会員約 1300 名)では、リコー株式会社会長の桜井正光代表幹事が 4 年間の代表幹事としての任期をこの 4 月に終えられるに際し、「10 年後の国のかたち」を 1 年がかりでとりまとめております。代表幹事の桜井氏が強力なリーダーシップを発揮なさり、副代表幹事や関係する数多くの委員会や幹事会で「2020 年の日本はどうあるべきか」を熱心に議論しています。

Q：どのような見地、問題意識ですか。

A：経済同友会は、企業経営者が、業界団体の代表ではなく、個人の資格で参加して活動するものですので、企業経営者の視点から考えた「10 年後のこの国のかたち」であると私は理解しています。

超少子化・超高齢化による人口減少や、国と地方の行財政危機、超円高やグローバル化、中国・インドをはじめとする新興諸国の台頭による構造改革の必要性、地球温暖化、そして何よりも景気の長期低迷(デフレ)への対応など、日本や世界がかつて経験したことのない多くの課題を 10 年後の 2020 年までにどのように解決したらよいかを「この国のかたち」として真正面から考え、全国民の議論のたたき台としてとりまとめているのです。

Q：どのような基本理念で考えているのですか。

A：「若者がやる気と希望をもてる国」と「国際社会から信頼される国」の 2 つです。政治家や政策担当の行政マンだけではなく、企業家や全国民が自己責任で、自分のこととして「10 年後のこの国のかたち」を議論する契機、きっかけになればと考えます。

イギリスの経済週刊誌「エコノミスト」の年末の特集号には、日本のことが全くといってよいほど触れられていませんでした。JAPAN という文字がいつになっても出てこない。世界から全く相手にされなくなりつつあることに少し驚いています。

ただ、あきらめたらおしまいです。10 年後を見据えて、自分の未来は自分で切り開く、日本の未来は日本人の手で切り開く以外にありません。

Q：では、具体的には日本が抱える課題をどのように解決していくと考えるのですか。

A：何よりも大切なのは、経済再生と成長基盤の強化です。

経済成長戦略の縦ぐしとして 4 つの「戦略的成長分野」(グローバル化、 少子・高齢化対応、地球温暖化防止、 地域活性化)と、横ぐしとして 5 つの成長インフラ改革(民間活力、 地域活力、 内なる国際化、 科学技術・金融・ICT のイノベーション、 人材)を考えます。

Q：日本再構築に向け決断し、実行すべきことは何ですか。

A：日本再生の切り札は次の 10 項目と考えます。 地域主権型道州制、 民意を正確に反映した政策本位の政治、具体的には、一票の格差の是正と、衆議院を民意の府・参議院を良識の府と明確に機能を分けること、 プライマリー・バランスの黒字化、 グローバル化と少子・高齢化に対応する税制、 持続可能な社会保障制度、具体的には、基礎年金は税方式、医療保険・介護保険の見直し、 国を開くための経済連携協定、 サービス産業を含む生産性向上、産業・事業の新陳代謝を促し、産業構造の变革を促進、 農業の大規模化・法人化を促し、経営基盤と国際競争力を強化、 世界をリードする「低排出国家」の構築、 国際社会の平和と繁栄に貢献する主体性のある総合外交戦略を策定し、実行すること。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者をはじめとする企業経営者の皆様の「この国のかたち」に関する役割・行動についての提言は何ですか。

A：企業経営を通じて経済を立て直し、国の成長と発展を実現することが第一。新たな経済成長の牽引役としての企業が第二。

そのために、 弛まぬイノベーションによる価値創造と生産性向上、 透明性・公正性ある企業経営への改革、 イノベーションを生み出す人材の育成と獲得、 少子・高齢化社会における経済活力の維持、高齢者と女性の積極的雇用、高度人材としての外国人雇用などが議論されています。

Q：最後に一言どうぞ。

A：経済同友会の一メンバーとして「10 年後のこの国のかたち」の議論に参加させて頂いた者として、これから 10 年間、この提言で議論されたことが少しでも実現できるように、私も自分なりに努力をしたいと思います。

是非、皆様にも、経済同友会のホームページ等で経済同友会版「10 年後の国のかたち」をお読み頂ければ幸いです。

今月、皆様にご紹介させて頂きたいのは、アニル・K・グプタ、ハイヤン・ワン著、若山俊弘監訳「中国・インドの戦略的意味 - グローバル企業戦略の再構築 - 」同文館出版 2010 年 12 月 25 日刊です。

国際大学グローバル・コミュニケーション・センターが、12 月 16、17 日の 2 日間、東京・六本木の国際文化会館で、本書の出版記念を兼ねて本格的な国際会議を開催、私も参加しました。中国とインドなしでは経済や企業経営戦略が語れなくなる時代が迫っていることを実感しました。

是非、御一読を。

- 2010 年 12 月 22 日記す -